富士市埋蔵文化財調査報告　第65集

静岡県　富士市

天間沢遺跡　第45地区

2019年2月

富士市教育委員会

例　言

1　本書は静岡県富士市天間字横道下 1000 番 1 において実施した天間沢遺跡（第 45 地区）の発掘調査に関わる報告である。

2　発掘調査は宅地分譲工事に先立つ事前調査として、有限会社 オオサカ不動産からの委託により富士市教育委員会が実施した。

3　発掘調査は、平成 29 年（2017 年）6 月 19 日に開始し、平成 29 年（2017 年）8 月 10 日までの間に実施した。実際の調査掘削面積は 271.699 ㎡である。

4　整理作業は平成 30 年（2018 年）4 月 16 日に開始し、本書の刊行をもって終了した。

5　発掘調査・整理作業は佐藤祐樹（市民部文化振興課主査）・伊藤　愛（市民部文化振興課主事）が担当した。

6　本書の編集・執筆は主に伊藤が行い、第 3 章の遺構部分の執筆、全体の割付は若林美希（文化振興課臨時職員）が担当した。

7　本書に掲載した調査に関わる図は、調査担当者および若林・服部孝信・小島利史・稲葉万智子・金田純子（以上、文化振興課臨時職員）が作成した。
遺物は、小田貴子（同）が実測し、稲葉・金田が図版を作成した。
遺物の接合・拓本は井上尚子・石川都久子・渡辺美規子・牧野かおり（同）による。
調査記録写真は佐藤が撮影し、遺物写真撮影は伊藤が行った。

8　本書で報告した調査に関わる記録図面・出土遺物等の資料は、すべて富士市教育委員会（市民部文化振興課）で保管している。
今後、富士山かぐや姫ミュージアム（富士市立博物館）に移管する予定でいる。

9　発掘調査及び本書の作成にあたり、次の方々にご協力とご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。
小崎　晋　　篠原　武　　前嶋秀張

凡　例

1　本書で用いる座標値は、世界測地系（平成14年4月施行）に基づく。

2　遺構の略記号は以下の通りである。

SB：竪穴建物跡　SD：溝状遺構　SK：土坑　Pit：小穴　SU：埋甕　FP：炉跡

3　土器および土層などの色調は『新版　標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議局監修　2000版）による。

4　本書で用いる土器編年は、主として以下の文献を参考にした。

山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2

小林達雄編 2008『総覧　縄文土器』

目　次

例　言
凡　例
目　次

第 1 章　調査経緯と経過
　第 1 節　発掘調査　1
　第 2 節　整理作業　2

第 2 章　立地と概要
　第 1 節　地理的環境　4
　第 2 節　調査履歴と基本層序　5

第 3 章　調査成果
　第 1 節　確認調査　10
　第 2 節　本調査　13

第 4 章　総括　42

付表　土坑・ピット一覧表
　　出土遺物観察表

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1章　調査経緯と経過
第1節　発掘調査
第1図　天間沢遺跡第45地区　位置図　1
第2図　SB2001検出状況　2
第2節　整理作業
第3図　整理作業風景　2
第4図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図　3
第2章　立地と概要
第1節　地理的環境
第5図　周辺地形図　4
第6図　静岡県富士市の位置　4
第2節　調査履歴と基本層序
第7図　土層堆積状況　5
第8図　基本土層図　5
第9図　調査履歴図　8
第10図　天間沢遺跡　遺構分布状況図　9
第3章　調査成果
第1節　確認調査
第11図　SB1001　出土遺物実測図　10
第12図　SK1007　出土遺物実測図　11
第13図　確認調査　包含層　出土遺物実測図　1　11
第14図　確認調査　包含層　出土遺物実測図　2　12
第2節　本調査
第15図　本調査区　全体図　13
第16図　SB2001　14
第17図　SB2001FP01　15
第18図　SB2001　出土遺物実測図　15
第19図　SB2002　16
第20図　SB2002　出土遺物実測図　17
第21図　SB2003　18
第22図　SB2003　出土遺物実測図　19
第23図　SB2004　20
第24図　SB2004FP01　21
第25図　SB2004　出土遺物実測図　21
第26図　SU2001　22
第27図　SU2001　出土遺物実測図　23
第28図　土坑・ピット　平面図1　24
第29図　土坑・ピット　セクション図1　25
第30図　土坑・ピット　平面図2　26
第31図　土坑・ピット　セクション図2　27
第32図　土坑・ピット　平面図3　28
第33図　土坑・ピット　セクション図3　29
第34図　土坑・ピット　平面図4　30
第35図　土坑・ピット　セクション図4　31
第36図　土坑・ピット　平面図5　32
第37図　土坑・ピット　セクション図5　33
第38図　土坑・ピット　平面図6　34
第39図　土坑・ピット　セクション図6　35
第40図　土坑・ピット　平面図7　36
第41図　土坑・ピット　セクション図7　37
第42図　土坑・ピット　出土遺物実測図　38
第43図　本調査　包含層　出土遺物実測図1　39
第44図　本調査　包含層　出土遺物実測図2　40
第45図　本調査　包含層　出土遺物実測図3　41
第4章　総括
第46図　天間沢遺跡　縄文時代遺構分布状況模式図　43

挿表目次

第2章　立地と概要
第2節　調査履歴と基本層序
第1表　天間沢遺跡調査履歴　6

写真図版目次

PL.1
1. 本調査区全景（西から）
PL.2
1. 1Tr（北西から）
2. 1Tr SK1001（東から）
3. 2Tr（南東から）
4. 3Tr（南東から）
5. 4Tr（南東から）
6. 4Tr SB1002 セクション（西から）
PL.3 ～ 4
確認調査出土遺物
PL.5
1. SB2001FP01 検出（南西から）
2. SB2001 検出（南から）
3. SB2001SD01 セクション（南東から）
4. SB2001FP01（西から）
5. SB2001 完掘全景（南西から）
PL.6
1. SB2002 検出（北から）
2. SB2004FP01 検出（北西から）
3. SB2002 と SB2004FP01 の切り合い（東から）
4. SB2004FP01 南北セクション（北東から）
5. SB2002・SB2004（北西から）
PL.7
1. SB2004FP01 完掘（北から）
2. SB2002 完掘（東から）
PL.8
1. SB2003 検出（北から）
2. SB2003 完掘（北東から）
3. SU2001 東西セクション（南から）
4. SU2001（南東から）
5. SB2002 石器 13 出土状況（北東から）
6. SK2001 石器 42・44 出土状況（南から）
7. Pit2121 石器 43 出土状況（北東から）
8. Pit2204 石器 39 出土状況（南東から）
PL.9 ～ 14
本調査出土遺物

第1章　調査経緯と経過

第1節　発掘調査

1　調査の経緯

有限会社オオサカ不動産（以下、事業者）は、富士市天間字横道下1000番1（面積2,437㎡）において宅地分譲を計画した。当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地「天間沢遺跡」に該当することから、平成29年4月12日、富士市教育委員会教育長宛（文化振興課）に「埋蔵文化財試掘確認調査依頼書」を提出した為、確認調査を実施する事となった。

2　確認調査

確認調査は平成29年5月9日～5月10日にかけて行った。調査では、敷地内の4ヶ所にトレンチを設定し、重機による表土除去後、人力による遺構精査に努めた。その結果、竪穴建物跡や土坑などの遺構や土器・石器などの遺物が確認された。

5月11日、富士警察署長宛に「埋蔵物の発見届」（富市文発第157号）、県教育長宛に「埋蔵文化財保管証」（富市文発第157-2号）を提出した。5月12日、事業者ならびに県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第163号）を提出し、事業者との間で埋蔵文化財の保護に対する対応について協議を開始した。

3　本発掘調査

事業者との協議の結果、新設市道部分は遺跡の保護が図れないことから、静岡県教育委員会教育長より、市道部分の本発掘調査を実施するよう事業者に通知がなされた（教文第377号）。これにより、事業者からの委託を受けて市教育委員会が本発掘調査を実施することとなった。平成29年6月5日、事業者と富士市長、市教育長の三者間で文化財調査に関する協定が締結され、これに基づいて事業者と富士市長の二者間で「平成29年度　天間沢遺跡（2）発掘作業に関わる業務委託契約」を締結し、本発掘調査を実施するに至った。なお、発掘調査は富士市教育委員会の補助執行機関である市民部文化振興課が担当した。

本発掘調査は、平成29年6月19日～平成29年8月10日まで行った。

まず、バックホーによって調査範囲の表土除去を行い、人力精査による遺構検出ののち、遺構の掘削、写真や測量などの記録作業を行った。平成29年8月10日、事業者に対する発掘作業の完了報告を経て、平成29年8月23日、事業者と県教育長宛に「発掘調査結果概要」（富市文発第519号）を提出した。その後、業務委託金の変更契約、精算をもって、発掘作業に関わる業務委託契約が終了した。

以下、調査経過を日誌より抜粋する。

6月19日　重機によるサブトレ掘削。旧地形や土層の堆積状況を確認。
6月20日　重機による表土除去開始。
6月21日　大雨により現場水没。
6月23日　表土掘削完了。遺構検出作業開始。
6月29日　遺構掘削開始。適宜写真撮影や図面作成を併行して行う。
7月12日　発掘作業は休止。TS計測や図面作業のみを行う。
7月13日　大雨のため現場水没。

第1図　天間沢遺跡第45地区　位置図

7月14日　排水作業。
7月26日　完掘写真に向けた清掃開始。遺構掘削、TS計測を同時併行。
7月31日　高所作業車を使用し、全景完掘写真撮影。
8月8日　SU2001遺物取り上げ。遺構掘削終了。
8月9日　TS計測終了。
8月10日　器材撤収。現場引渡し。

第2図　SB2001検出状況

【発掘調査体制】

[調査主体] 富士市教育委員会　教育長　山田　幸男
[担当機関] 富士市役所市民部　部　長　高野　浩一
文化振興課　課　長　久保田伸彦
文化財担当　統括主幹　植松　良夫
主　幹　石川　武男
調査担当者　主　査　佐藤　祐樹
主事補　伊藤　愛
調査員　小島　利史
服部　孝信
若林　美希
臨時職員　石川都久子
牧野かおり
渡辺美規子
発掘作業員　社団法人富士市シルバー人材センター

第2節　整理作業

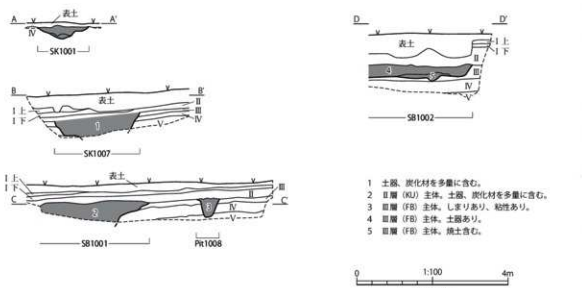
事業者と富士市長、市教育長の三者間で締結された文化財調査に関する協定に基づき、調査終了後の平成30年4月16日、事業者と富士市長の二者間で整理作業に関わる業務委託契約が締結された。その後、調査記録および出土遺物の整理作業を開始した。

平成31年2月28日、天間沢遺跡第45地区2次調査の埋蔵文化財発掘調査に関わる一連の作業は、本書の刊行をもって、すべての業務委託契約が完了した。

第3図　整理作業風景

【整理作業体制】

[作業主体] 富士市教育委員会　教育長　山田　幸男
(～平成30年12月23日)
教育長　森田　嘉幸
(平成30年12月24日～)
[担当機関] 富士市役所市民部　部　長　高野　浩一
文化振興課　課　長　久保田伸彦
文化財担当　統括主幹　植松　良夫
主　幹　石川　武男
整理担当者　主　査　佐藤　祐樹
主　事　伊藤　愛
調査員　若林　美希
臨時職員　稲葉万智子
井上　尚子
小田　貴子
金田　純子
石川都久子
牧野かおり
渡辺美規子



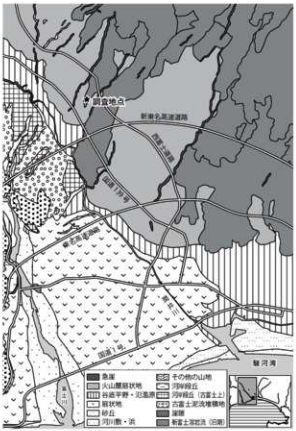
第4図　確認調査トレンチおよび本調査区配置図

第2章　立地と概要

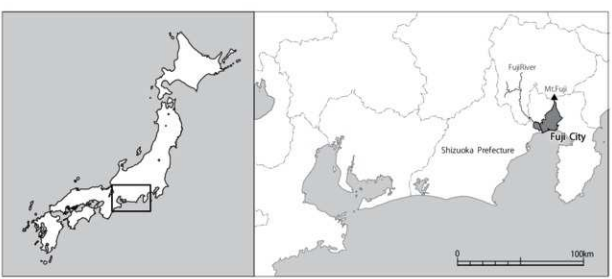
第1節　地理的環境

天間沢遺跡は、静岡県富士市における富士山南西麓の火山麓扇状地上に位置する。遺跡東には天間沢、西には福泉川が流下しており、北西部は富士宮市に隣接する。この一帯は古富士火山活動期の噴出物である古富士泥流が、浅い深度で分布しており、天間沢と福泉川の中流～上流部では、その露頭を見ることができる。天間沢や福泉川が年間を通じて流水があるのは、この古富士泥流が不透水層であるためであり、富士山麓に湧き水が多いこともこれに起因する。天間地域においてはかつて数ヶ所の湧水点が存在したことが確認されており、人々が生活していくうえで良好な環境であったといえる。

BP.13,700　300年に新富士火山の活動が始まり、以後多くの溶岩流が噴出される。なかでも活動の規模が大きく、噴出物の量が最大であった旧期の溶岩流は大渕溶岩流と呼ばれ、粘性が乏しいため流動性が高く、古富士泥流を覆うようにして広範囲にわたって拡がることとなった。天間沢～福泉川間も例外ではなく、天間沢遺跡北側までその分布が及んでいる。その後、大渕溶岩流を直接覆うかたちで天間沢～福泉川間に天間沢扇状地堆積物層が形成され



第5図　周辺地形図



第6図　静岡県富士市の位置

る。これは東方の伝法沢～凡夫川間に分布する大渕扇状地堆積層の西の延長とされており、層相や堆積物などの諸性格は共通している。BP.6,000 年頃の火山活動噴出物である入山瀬溶岩流の流下により、伝法沢と福泉川の中央部で入山瀬台地が形成されると、大渕扇状地と天間沢扇状地は分断され、天間沢扇状地は盆地となる。現在の地形はおおむねこの時期に完成したと考えられ、縄文時代にはこの盆地に天間沢の集落が形成されるのである。

天間沢遺跡が縄文時代の集落として発展していく一方、遺跡東の入山瀬台地を挟んだ大渕扇状地上では、同時期の遺跡はほとんどみられない。それに対し、天間沢遺跡の西には同じく縄文時代にあたるジンゲン沢遺跡が存在し、さらに遺跡に隣接する富士宮市域においても、蟹入越遺跡や若宮遺跡、代官屋敷遺跡など、縄文時代の遺跡が数多く広がっている。こうした立地の状況を鑑みると、天間沢遺跡の集落動態を探るには、台地以西および富士宮市域に目を向けることが必要であると考える。

参考文献

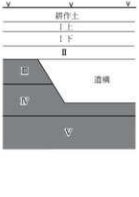
小川賢之輔「地形・地質」『富士市の自然』自然調査研究会 第 2 次中間報告富士市 1981

第 2 節　調査履歴と基本層序

天間沢遺跡の発見は、昭和初期に遡る。富士山南麓を中心として活動していた岳南考古学会の佐野武男氏が、現地踏査や遺物収集を行ったことで、縄文時代の大集落であると認識されるようになった。しかし、長い間本格的な調査は行われず、ようやく調査に至ったのは、発見から 30 年以上経過した昭和 35 年のことであった。第 1 次調査では、100 ㎡と小規模ながらも縄文中期に属する配石遺構が確認されている。以降、平成 29 年 8 月までに 49 地点で調査が行われてきた。調査の履歴・詳細は、第 1 表に示すこととする。

天間沢遺跡は、大渕溶岩流の有無によりその土層は異なるが、基本層序を第 8 図に示した。

第 7 図　土層堆積状況



古墳時代前期の遺構覆土
　Ⅰ　大沢ラピリ層　黒褐色。緻密なスコリア粒子で極めて硬くしまる。（上・下に分層される。）
縄文時代中・後期の包含層
　Ⅱ　栗色土層（KU）　黒褐色。橙色スコリア粒をやや多く、白色テフラ（カワゴ平パミス）を少量含む。しまりはやや強い。
縄文時代早・前期の包含層
　Ⅲ　富士黒土層（FB）黒色。橙色スコリア微粒子を微量含む。しまりはやや弱く、粘性が出てくる。
　Ⅳ　黒移層（Zn）　暗褐色。暗色味の強い土と黒味が強い土が混ざり合い、鮮やかな橙色のスコリア粒を少量含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。
旧石器時代の包含層
　Ⅴ　休場層（YL）　明褐色。全体的に赤みが強く、橙色スコリア粒をやや多く含む。しまりはやや弱く、粘性はやや強い。

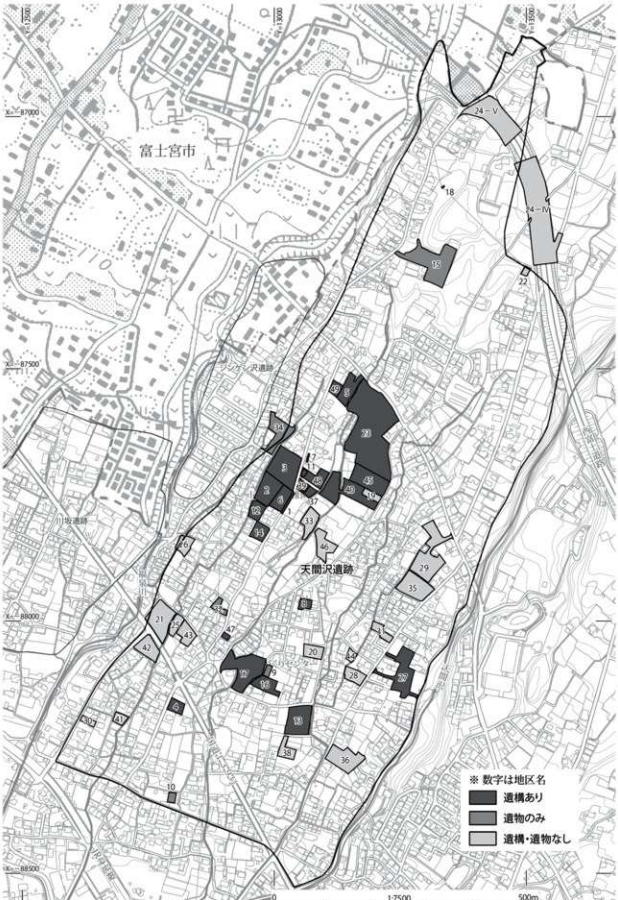
第 8 図　基本土層図

第1表　天間沢遺跡調査履歴

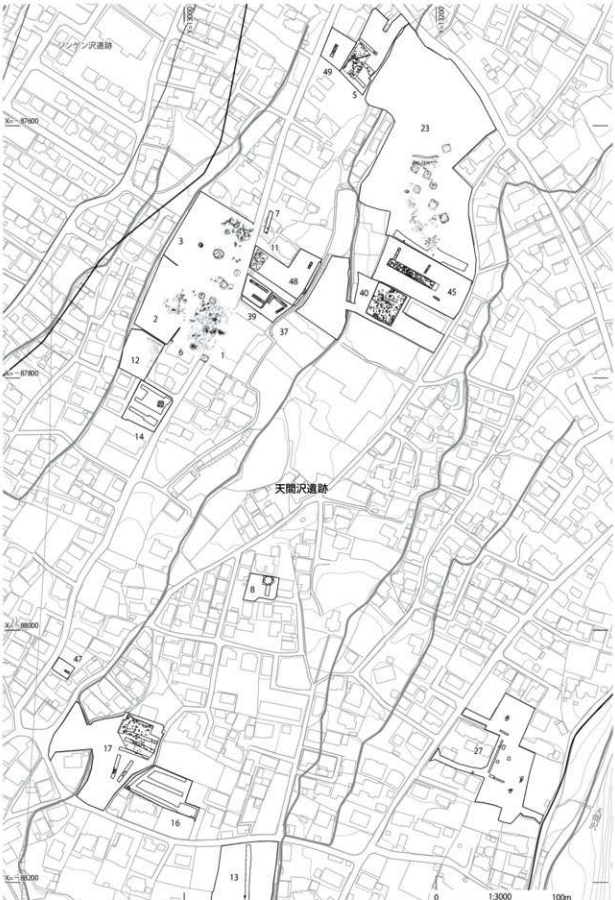
調査年度	地区・次（区画地区名）	調査種類	調査期間	所在地 調査の規模	発掘面積（㎡）調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	文献
S35	6 地区・1 次（第 1 次　F 地区の一部）	学術調査	1960****	天間 1048・1 学術調査	100	縄文中期	配石遺構		
S44	**1 地区（第 2 次　A 地区）**	**本調査**	**1970023 ～ 1970405**	**天間 1048　外 市道高屋天間沢舗装建設**	**300**	**縄文中期 古墳前期**	**配石遺構 建物跡 2**	**縄文土器・石器 土師器**	**2**
S46	2 地区（第 3 次　B 地区）	本調査	1971010 ～ 1971028	天間 1047・1 市立天間幼稚園建設	2,600	縄文中期	配石遺構・土坑 5・建物跡 1	縄文土器・石器	2
S46	**3 地区（第 4 次　C 地区）**	**本調査**	**1971224 ～ 1972022**	**天間 1045・1　外 市立天間幼稚園建設**	**3,400**	**縄文中期 古墳前期**	**建物跡 11・土坑 15 建物跡 3**	**縄文土器・石器 土師器**	**2**
S46	23 地区・1 次（第 5 次　横道下地区第 1 次）	本調査	1971224 ～ 1972025	天間 995 ボーリング場建設	500	縄文中～後期 古墳前期	配石遺構・建物跡 1 建物跡 6	縄文土器・石器 土師器	2
S47	**4 地区（第 6 次　D 地区）**	**試掘**	**1970325 ～ 1970329**	**天間 977・1 保安林下**	**100**	**縄文中期**	**ピット状遺構**	**縄文土器 土師器**	
S47	5 地区・1 次（第 6 次　E 地区）	試掘	1972224 ～ 1972229	天間 988・1 道路拡幅確認	50	縄文中期 古墳前期	ピット状遺構 溝状遺構	縄文土器	
S53	**6 地区・2 次（第 7 次　F 地区）**	**試掘**	**1978002 ～ 1979120**	**天間 1048・1 市立天間幼稚園拡張**	**1,053**	**縄文中期**	**土坑 30・建物跡 2 集石遺構 4**	**縄文土器・石器**	**1 2**
S54	24 地区（第 1 ～ V 地点）	試掘	1979006 ～ 1979116	久老　外 西富士道路建設		縄文 弥生	なし	縄文土器・石器・有孔黒製石錘	3
S58	**17 地区・1 次（Q 地区）**	**試掘**	**19830418 ～ 19830419**	**天間 1106・1 天間公民館建設**	**1,142 125**		**なし**	**なし**	
S58	7 地区（第 8 次　G 地区）	試掘	19831024 ～ 19831028	天間 1045・5 道路拡幅確認	50	縄文 古墳	配石遺構 1・埋甕 1・土坑 2 ピット 2	縄文土器	
S58	**8 地区（第 8 次　H 地区）**	**試掘**	**19831107 ～ 19831112**	**天間 1130・1 道路拡幅確認**	**50**	**古墳**	**竪穴建物跡 1**		
S58	9 地区（第 8 次　I 地区）	試掘	19831114 ～ 19831117	天間 1121 道路拡幅確認	50	縄文	なし	縄文土器	
S58	**10 地区（第 8 次　J 地区）**	**試掘**	**1983118 ～ 1983122**	**天間 528・529 道路拡幅確認**	**50**	**律令期**	**なし**	**土師器・須恵器**	
S59	11 地区（K 地区）	試掘	19840315 ～ 19840331	天間 1011・1 分譲建設調査	200	縄文	建物跡 5・土坑	縄文土器	
S61	**12 地区（L 地区）**	**試掘**	**19860905 ～ 19860910**	**天間 1062・3 宅地造成**	**750 300**	**縄文 古墳以降**	**土坑 3 溝状遺構 1**	**縄文土器・黒曜石・打製石斧**	
S62	13 地区（M 地区）	試掘	19870511 ～ 19870515	天間 1312・1　外 宅地造成	2,579 150	縄文	土坑 2	無し（周辺から縄文土器・土師器出土）	
S62	**23 地区・2 次（横道下地区第 2 次）**	**試掘**	**19870007 ～ 19870921**	**天間 999　外 宅地造成**	**7,000 400**	**縄文**	**埋甕 1・土坑 1・配石遺構 1**	**縄文土器・石斧**	
H01	14 地区（N 地区）	試掘	19890605 ～ 19890622	天間 1061・1　外 宅地造成	968 367	縄文 古墳前期	竪穴住居跡 1・ピット 1	縄文土器・石器・石斧 土師器	
H01	**15 地区（O 地区）**	**試掘**	**19890005 ～ 19890913**	**天間 1096・2　外 農道整備・高齢者住宅建設**	**4,758 660**	**縄文 中・近世**	**土坑 2**	**縄文土器片**	
H03	16 地区（P 地区）	試掘	19911202 ～ 19911211	天間 1120・4 天間代遺跡公園整備	1,329 495	縄文 古墳	竪穴建物跡	縄文土器・黒曜石 土師器	
H03	**17 地区・2 次（Q 地区）**	**試掘**	**19911219**	**天間 1115・1　外 天間公民館駐車場造成**	**648**		**なし**	**なし**	
H03	18 地区（R 地区）	試掘	19920516 ～ 19920319	天間 1943・1 送電線鉄塔建設	144 22		なし	なし	
H04	**19 地区（S 地区）**	**試掘**	**19920708 ～ 19920710**	**天間 1001・4 共同住宅建設**	**905 65**		**なし**	**なし**	
H04	20 地区（T 地区）	試掘	19911013 ～ 19921026	天間 1127・1　外 共同住宅建設	960 312		なし	なし	
H04	**21 地区（U 地区）**	**試掘**	**19921020 ～ 19921027**	**天間 991・1 倉庫・事務所建設**	**2,915 194**		**なし**	**なし**	
H04	22 地区（V 地区）	試掘	19930225	天間 1785・21 送電線鉄塔建設	144 40		なし	なし	
H05	**5 地区・2 次（E-2 地区）**	**試掘**	**19930420 ～ 19930428**	**天間 988・8　外 共同住宅敷地造成**	**1,274 170**	**縄文 古墳**	**土坑・ピット 溝状遺構**	**縄文土器**	
H05	5 地区・3 次（E-2 地区）	本調査	19930524 ～ 19930705	天間 988・8　外 共同住宅敷地造成	1,274 300	縄文 古墳	土坑・炉跡・埋甕 ピット状遺構・溝状遺構	縄文土器・石器	
H14	**17 地区・3 次（Q 地区・1 次）**	**試掘**	**20020808 ～ 20020520**	**天間 1117・1　外 天間公民館増築**	**1,613 365**	**縄文 古墳**	**埋甕**	**縄文土器・石器 土師器**	**4**
H14	17 地区・4 次（Q 地区・2 次）	本調査	20020527 ～ 20020701	天間 1117・1　外 天間公民館増築	800 663	縄文 古墳	土坑	縄文土器 土師器	
H14	**25 地区（V 地区）**	**試掘**	**20020823**	**天間 990・1　外 共同住宅建設**	**635 90**		**なし**	**なし**	**4**
H17	26 地区（Z 地区）	試掘	20060302	天間 937・1 宅地造成	839 26		なし	なし	5
H19	**27 地区・1 次**	**試掘**	**20080318 ～ 20080326**	**天間 1238・1　外 宅地造成**	**3,266 87**	**古墳**	**竪穴建物跡 2・溝状遺構 1**	**土師器**	**6**
H20	27 地区・2 次	試掘	20081107	天間 1238・1　外 宅地造成	2,665 27		なし	なし	4
H20	**28 地区**	**試掘**	**20080521 ～ 20080522**	**天間 1167・1　外 集合住宅建設**	**995 56**		**なし**	**なし**	**4**
H20	29 地区	試掘	20081215 ～ 20081222	天間 1189・1　外 宅地造成	4,000 209		なし	なし	4
H21	**27 地区・3 次**	**試掘**	**20090406**	**天間 1242　外 集合住宅建設**	**1,866 13**		**なし**	**なし**	**7**
H22	30 地区	試掘	20110126	天間 625・10　外 不動産売買	342 8		なし	なし	8
H23	**31 地区**	**試掘**	**20110411**	**天間 1168 ㎡　外 集合住宅建設**	**635 14**		**なし**	**なし**	**8**
H23	32 地区	試掘	20110603	天間 1096・1　外 集合住宅建設	628 19	縄文	なし	土器	8
H24	**33 地区**	**確認**	**20121129**	**天間 1050・1 の一部 集合住宅新築**	**896 12**		**なし**	**なし**	**9**
H24	34 地区	確認	20121205 ～ 20121206	天間 964・1 外 および宮有地 宅地造成	2,158 72	縄文	なし	縄文土器	9

調査年度	地区・次（区画区名）	調査種別	調査期間	所在地 調査の原因	対象面積（㎡） 調査面積（㎡）	時代	遺構	遺物	文献
H25	**35 地区**	**確認**	**20130418**	**天間 1174-3　外 宅地造成**	**1,985 38**		**なし**	**なし**	**9**
H25	36 地区	確認	20130909 ～ 20130911	天間 1263　外 宅地造成	2,178 82		なし	なし	9
H25	**37 地区**	**確認**	**20131001 ～ 20131004**	**天間 1010-5 個人住宅建設**	**398 46**	**縄文**	**竪穴建物跡・ピット**	**縄文土器、石器**	**9**
H25	38 地区	確認	20131029	天間 1317-1　外 共同住宅建設	965 9		なし	なし	9
H25	**39 地区**	**確認**	**20140117 ～ 20140110**	**天間 1010-6 個人住宅建設**	**353 53**	**縄文**	**土坑・ピット**	**縄文土器、石器**	**9**
H26	40 地区-1 次	確認	20140722 ～ 20140728	天間 1001-1　外 長屋住宅新築	3,517 99	縄文	竪穴建物跡・ピット	縄文土器	10
H26	**40 地区-2 次**	**確認**	**20140818 ～ 20140821**	**天間 1001-1　外 長屋住宅新築**	**3,517 65**	**縄文**	**ピット**	**縄文土器**	**10**
H26	41 地区	確認	20150126	天間 613-1　外 水路産業廃棄	507 9		なし	なし	11
H27	**42 地区**	**確認**	**20150417**	**天間 600 番 1　外 店舗建設**	**1,510 23**		**なし**	**なし**	**11**
H27	40 地区-3 次	本調査	20150511 ～ 20150717	天間 1001 番 1　外 長屋新築	3,517 892	縄文	竪穴建物跡・炉・土坑・ピット	縄文土器・石器	10
H28	**43 地区**	**確認**	**20161114**	**天間 590 番 1　外 個人住宅及び集合住宅建設**	**996 7**		**なし**	**なし**	**12**
H28	44 地区	確認	20161121	天間 1159 番 1　外 集合住宅建設	454 12		なし	なし	12
H29	**45 地区-1 次**	**確認**	**20170509 ～ 20170510**	**天間 1000-1 宅地分譲**	**2,427 47**	**縄文**	**竪穴建物跡・土坑・ピット**	**縄文土器・石器**	**本書**
H29	45 地区-2 次	本調査	20170619 ～ 20170810	天間 1000-1 宅地分譲	272	縄文	竪穴建物跡・炉跡・土坑・ピット	縄文土器・石器	本書
H29	**46 地区**	**確認**	**20170628 ～ 20170629**	**天間 1137-1 農地改良**	**1,415 25**	**なし**	**なし**	**なし**	**13**
H29	47 地区	確認	20170703	天間 1098-12 水路産業廃	165 6	縄文	ピット	縄文土器・黒曜石	13
H29	**48 地区**	**確認**	**20170720 ～ 20170721**	**天間 1011-1　外 宅地造成**	**1,454 30**	**縄文**	**ピット**	**縄文土器**	**13**
H29	49 地区	確認	20170617 ～ 20170818	天間 988-15 宅地造成	489 23	縄文	ピット・溝・不明遺構	縄文土器	13

文献 1　『天間沢遺跡第 7 次（F 地区）発掘調査概報』（1979）
2　『天間沢遺跡 I　遺構編』（1984）・『天間沢遺跡 II　遺物・考察編』（1985）
3　『西富士道路（富士地区）・長南広域都市計画道路所子潮臨港海塵處文化財発掘調査報告書』「天間地区」（1981）
4　『平成 14・20 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』（2010）
5　『平成 17・18 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』京教堂（2008）
6　『平成 15・19 年度富士市内遺跡発掘調査報告書』（2009）
7　『平成 21 年度　富士市内遺跡発掘調査報告書』（2011）
8　『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 22・23 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 54 集（2013）
9　『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 24・25 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 57 集（2015）
10　『天間沢遺跡』富士市埋蔵文化財調査報告　第 58 集（2016）
11　『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 26・27 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 60 集（2017）
12　『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 28 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 62 集（2017）
13　『富士市内遺跡発掘調査報告書―平成 29 年度―』富士市埋蔵文化財調査報告　第 66 集（2019）



第９図　調査履歴図



第 10 図　天間沢遺跡　遺構分布状況図

第3章　調査成果

第1節　確認調査

確認調査では南北方向に3本（1～3Tr）、東西方向に1本（4Tr）のトレンチを設定した。

遺構

敷地の北西に設定した1トレンチでは土坑1基（SK1001）とピット4基（Pit1002～1005）を、中央の2トレンチでは土坑2基（SK1006・1007）、3トレンチでは建物跡1軒（SB1001）とピット1基（Pit1008）を、南東の4トレンチでは断面観察で建物跡1軒（SB1002）を検出した。また、2トレンチは本調査区の中央付近に位置し、SK1007は本調査での Pit2106・2107・2178 と SB2004 周溝に、SK1006は Pit2108 と SK2165 に対応するとみられる。SK1007 出土遺物として図化した磨製石斧（第12図7）は、出土位置から Pit2178 に属するものと考えられる。

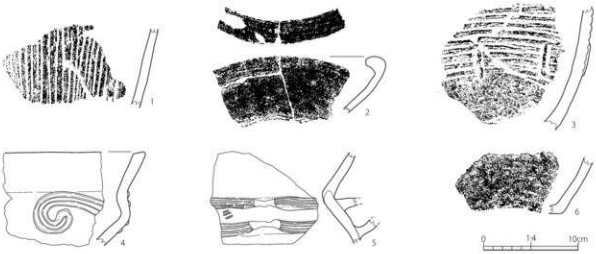
遺物

SB1001　6点の土器を図示した。1は井戸尻式で、縦位の平行沈線を施す。貼付浮文が一部残存している。2～4はいずれも曽利式に属するものである。2は無紋口縁。3は横位平行沈線の上に縦位の粘土紐を貼付する。4は曽利Ⅲ式の浅鉢で、渦巻文を施文する。5は把手付土器。一部に縄文が残る。6は底部で時期は判然としない。

SK1007　砂岩製の磨製石斧（7）が1点出土している。

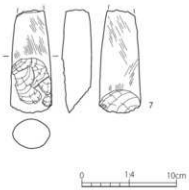
包含層　土器36点、土製品1点、石器4点を図示した。8～10はいずれも藤内式である。8は深鉢口縁部に付随する渦巻き状突起である。9は連続爪形刺突文帯が湾曲している。10は縦位のキャタピラー文や連続刺突文が施文される。11～18はおおむね井戸尻式に帰属するものである。11、12は無紋口縁。13、14は波状口縁の口縁部で、13は渦巻文やキャタピラー文、14には工字状の沈線と縦位の区画沈線がみられる。15は篦状工具による連続刺突文や渦巻文が施文された隆帯を貼付している。16は断面三角形の隆帯に連続刺突文、17は無紋口縁を有し、頸部に爪形刺突文を施文する。18は連続刺突文を伴う2本の隆帯間に三叉文を施している。19は土製円盤で、時期は縄文中期。

20、21は曽利式口縁部の典型的な特徴を有している。20は重三角文、21は斜位の沈線を施す。22～30はおおむね曽利Ⅰ～Ⅱ式に属する。22、23は無紋口縁。24は刺突文を地紋とし、半弧状の沈線で区画している。25は隆帯による渦巻つなぎ弧文、



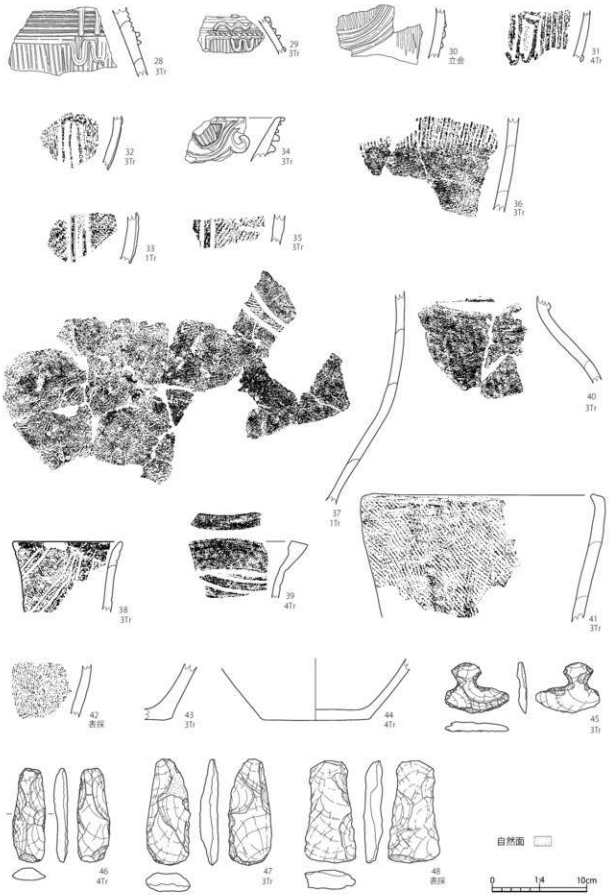
第11図　SB1001　出土遺物実測図

26は沈線による渦巻文である。27～29は縦位沈線と波状隆帯を特徴とし、横位の区画が入る。30は横位沈線をU字状の多重隆帯で区画する。31は、縦位の平行沈線と波状隆帯からなる。32、33は曽利Ⅱ～Ⅲ式に帰属するもので、前者は条線文を、後者は縄文を地紋とし、33の縄文は一部擦り消しをおこなっている。34は半弧上の区画隆帯から渦巻文が派生する、曽利Ⅲ式の典型的な文様形態をとる。35、36は曽利Ⅲ～Ⅳ式。37は加曽利式で、地紋が縄文である。沈線内にも縄文を施す。38、39は沈線を使ったモチーフを文様とする。40は鉢の肩部、41は口縁に至るまで全面を縄文で満たす。42は波状沈線を伴う。43、44は底部で時期は不明である。



第12図　SK1007　出土遺物実測図

第13図　確認調査　包含層　出土遺物実測図　1



第14図　確認調査　包含層　出土遺物実測図　2

第 2 節　本調査

概要

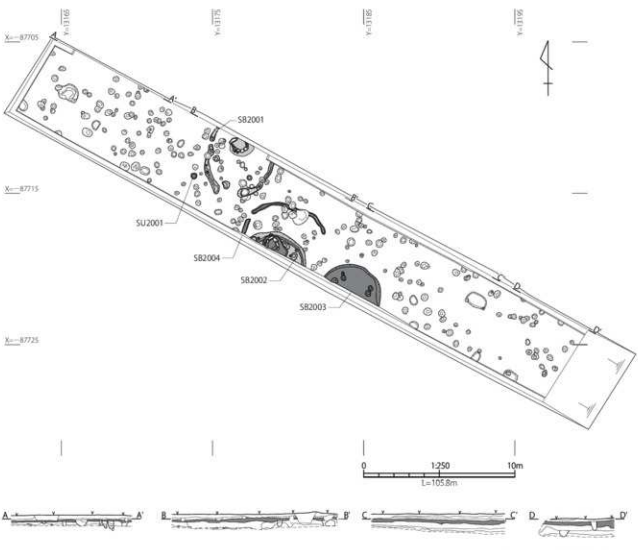
本調査では、竪穴建物跡 4 軒（SB2001 ～ 2004）、埋甕土坑 1 基（SU2001）、ピット・土坑 234 基（2001 ～ 2237）が検出され、コンテナ 6 箱分の土器・石器が出土した。

ピット・土坑は調査区の全域に散在するが、竪穴建物跡と埋甕土坑は本調査区の中央に集中する。

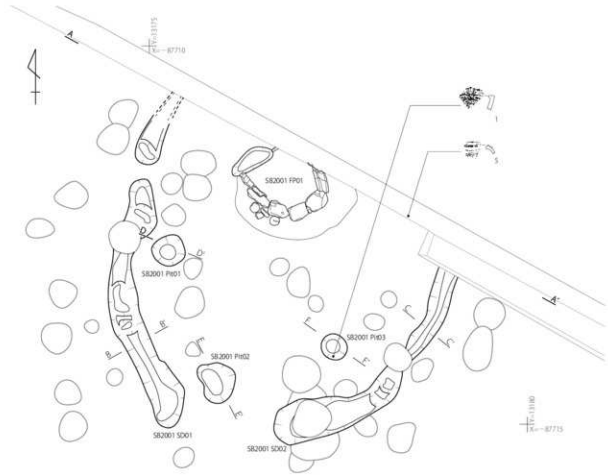
建物跡

SB2001

残存状況　本調査区の中央、北寄りに位置する。石囲炉（SB2001FP01）と炉を囲んで半円形にめぐる周溝を検出した。炉の一部を含む北部分は本調査区外にあり、全体の規模は不明であるが、検出された周溝の外径は東西 4.70 m、南北残存 3.95 m を測り、南北幅 5.50 m ほどの楕円形の平面プランになると推定できる。周溝の幅は 25cm から 50cm ほど、深さは 15cm 前後を測る。周溝には、部分的に深くなるところが認められるとともに、南部分で 1.20 m、



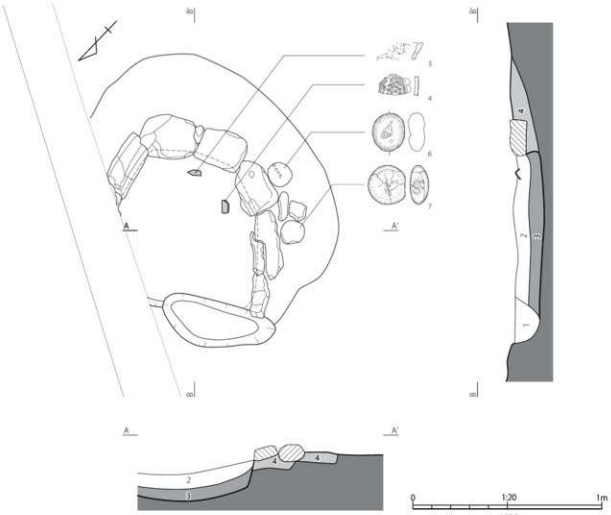
第 15 図　本調査区　全体図



1	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりあり、粘性ややあり。焼土粒子中量含む。	SB2001 覆土
2	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。	SB2001FP01 覆土
3	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりややあり、粘性ややあり。	SB2001FP01 貼り方埋土
4	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりや弱、粘性ややあり。ロームブロック多量含む。	SB2001FP01 貼り方埋土
5	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2001FP01 貼り方埋土
6	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2001SD01 覆土
7	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2001SD01 覆土
8	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを含む。赤色粒子を中量含む。	SB2001SD01 覆土
9	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2001SD01 覆土
10	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。炭化材・焼土を中量含む。	SB2001SD02 覆土
11	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック多量含む。	SB2001SD02 覆土
12	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。	SB2001Pit01 覆土
13	黒　色 (7.5YR2/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・赤色粒子中量含む。	SB2001Pit01 覆土
14	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりややあり、粘性あり。ロームをシミ状に多量に含む。	SB2001Pit01 覆土（埋戻し土か？）
15	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・赤色粒子を中量含む。	SB2001Pit02 覆土
16	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりややあり、粘性あり。ロームをシミ状に多量に含む。	SB2001Pit02 覆土（埋戻し土か？）
17	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・赤色粒子を中量含む。	SB2001Pit03 覆土
18	黒褐色 (7.5YR3/2)	しまりややあり、粘性あり。ロームを土をシミ状に含む。	SB2001Pit03 覆土
19	黒褐色 (7.5YR3/1)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・赤色粒子を中量含む。	SB2001Pit03 覆土

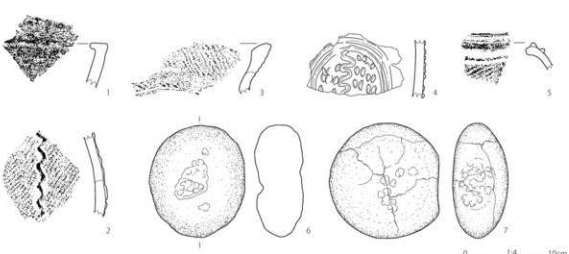
0　1.50　2m

第16図　SB2001

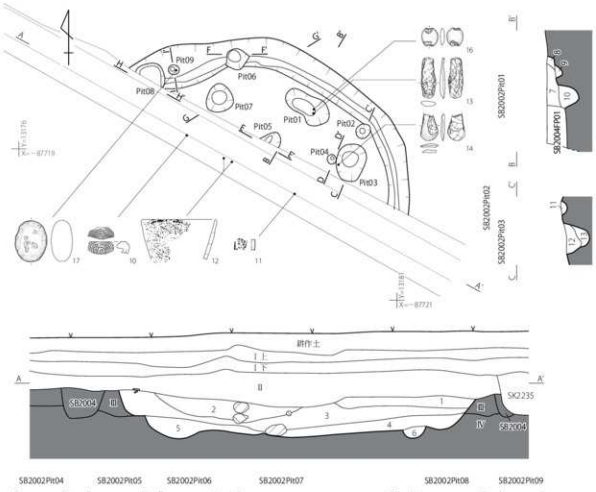


1	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子多量含む。	石の抜取り穴
2	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。	SB2001FP01 覆土
3	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子多量含む。	SB2001FP01 使用中の堆積土
4	黒褐色 (7.5YR2/2)	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2001FP01 掘り方埋土

第 17 図　SB2001FP01



第 18 図　SB2001　出土遺物実測図



1	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。炭化材少量含む。	SB2002 覆土
2	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。	SB2002 覆土
3	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・炭化材・焼土粒子少量含む。	SB2002 覆土
4	極暗褐色（7.5YR2/3）	しまりやや弱、粘性あり。ロームブロックをシミ状に含む。	SB2002 覆土
5	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に含む。	SB2002 覆土
6	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2002 覆土
7	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。炭化材中量含む。	SB2002 覆土
8	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2002 覆土
9	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に若干含む。	SB2002 壁溝覆土
10	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。	SB2002Pit01 覆土
11	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子中量含む。	SB2002Pit02 覆土
12	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、ローム粒子中量含む。	SB2002Pit02 覆土
13	暗褐色（7.5YR3/3）	しまりやや弱、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2002Pit03 覆土
14	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2002Pit04 覆土
15	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2002Pit05 覆土
16	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりやや弱、粘性やや弱。ロームブロック中量含む。	SB2002Pit05 覆土
17	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性あり。炭化材・ロームブロック中量含む。	SB2002Pit06 覆土
18	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりやや弱、粘性ややあり。ロームブロック中量、炭化材少量含む。	SB2002Pit07 覆土
19	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2002Pit07 覆土
20	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。炭化材・焼土少量含む。	SB2002Pit08 覆土
21	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりやや弱、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2002Pit08 覆土
22	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2002Pit09 覆土

0 1:50 2m
L=105.4m

第19図 SB2002

西部分で 0.2 mほど切れる。調査区北壁のセクションで壁が緩く立ち上がる様子が確認でき、壁の上端から床面までの深さは 38cm を測る。

覆土　覆土は 1 層で、焼土粒子を中量含む黒褐色土である。

柱穴・ピット　深さと覆土が共通性をもつ 3 基のピット（SB2001Pit01 ～ 03）を本建物跡に伴うものとした。周溝に沿ってほぼ等間隔に並んでいる。

炉　床面の中央やや北寄りに位置するとみられる。北側の一部が調査区外にあり、西側の炉石は外されて抜取り痕を検出している。径 150cm、深さ 20cm ほどの掘り方に、ロームブロックを含む黒褐色土を掘り方埋土とし、25cm から 30cm ほどの石を内側を揃えて円形に並べている。南側には石器の転用とみられる径 12cm ほどの丸石が 2 点使われている。炉石の内側には被熱の痕跡が認められる。炉の規模は、炉石の内側で東西推定 80cm、南北 70cm、深さ 20cm を測る。底面から厚さ 8cm ほどの焼土を多量に含む覆土が認められる。これは炉の使用中の堆積土と考えられる。

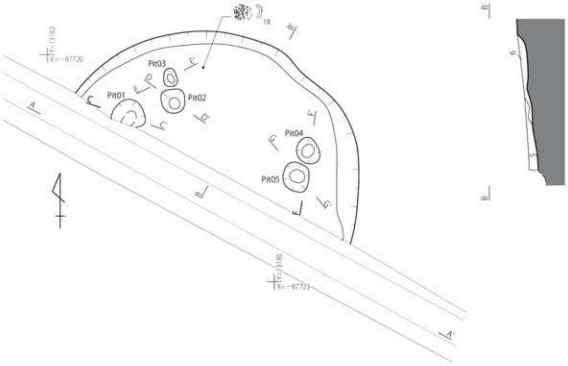
遺物　5 点の土器と 2 点の石器を図示した。土器はいずれも曽利式に帰属するものである。1 は無紋口縁。2 ～ 4 は FP01 からの出土である。時期はおおむね曽利Ⅲ式とみられる。2 は地紋の縄文の上に波状隆帯を貼付する。3 は縄文を地紋とする口縁部。4 は逆 U 字状の区画がみられ、内部に刺突文や波状隆帯を施す。5 は曽利Ⅳ式の口縁部である。

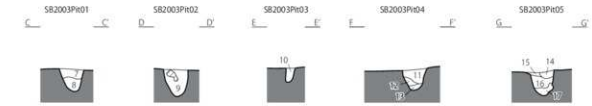
6、7 は敲石で、いずれも FP01 から出土した。6 は安山岩製、7 は砂岩製である。

SB2002

残存状況　本調査区中央、南寄りに位置し、南側の大部分は調査区外にある。建物の北部分にあたる半円形の掘り込みと周溝を検出した。検出部分で南北幅 1.65 m、東西幅 4.20 m を測り、本建物跡の平面形が円形を呈するならば、直径約 4.60 m と推定できる。検出された周溝の幅は 25cm から 60cm ほど、床面からの深さは 12cm を測る。調査区南壁のセクションで壁が緩く立ち上がる様子が確認でき、壁の上端から床面までの深さは 60cm ほどを測る。

第 20 図　SB2002　出土遺物実測図





1	黒色（7.5YR1.7/1）	しまりややあり、粘性ややあり。橙色スコリア中量含む。	SB2003 覆土
2	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック中量含む。	SB2003 覆土
3	極暗褐色（7.5YR2/3）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003 覆土
4	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりやや弱、粘性あり。ローム粒子・焼土粒子中量含む。	SB2003 覆土（炉か）
5	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。	SB2003 覆土
6	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003 覆土
7	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子多量含む。	SB2003Pit01 覆土
8	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003Pit01 覆土
9	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを多量含む。	SB2003Pit02 覆土
10	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。	SB2003Pit03 覆土
11	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを多量含む。	SB2003Pit04 覆土
12	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。	SB2003Pit04 覆土
13	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003Pit04 覆土
14	黒色（7.5YR2/1）	しまりややあり、粘性ややあり。	SB2003Pit05 覆土
15	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003Pit05 覆土
16	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを多量含む。	SB2003Pit05 覆土
17	黒褐色（7.5YR3/1）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。	SB2003Pit05 覆土

0 1:50 2m
L=105.4m

第 21 図　SB2003

南北方向にベルトを設定し、北西部分の覆土掘削中に石囲炉を検出したが、土層断面観察の結果、これは本建物跡を切って構築された別の建物跡（SB2004）に伴う炉（SB2004FP01）と認定した。よって、本建物跡 SB2002 は SB2004 と重複し、切り合い関係は本建物跡が古く、SB2004 が新しい。

覆土　黒褐色土を主体とする自然堆積。

柱穴・ピット　本建物跡に伴うとみられる 9 基のピット（Pit01 ～ 09）を検出した。径が 10cm から 20cm ほどの小さなもの（Pit02・04・09）と、20cm から 50cm の間のもの（Pit05 ～ 08）、50cm を超えるもの（Pit01・03）がある。柱穴の特定は出来ない。

炉　検出されない。調査区外に存在する可能性は残る。

遺物　土器と石器を各 5 点図示した。8、9 は連続刺突文による区画内に縄文が充填し、区画外の縄文は磨消している。いずれも狢沢～新道式にあたる。10 は渦巻文を施文した口縁部で、雲母を多量に含む。曽利Ⅱ式のものである。11 は縦位の浅い沈線を施す曽利Ⅲ～Ⅳ式で、12 は刺突文を地紋とする堀之内式である。

13 ～ 15 は砂岩製の打製石斧。16 は頁岩製の石錘で、17 は玄武岩製敲石。

SB2003

残存状況　本調査区の中央、南寄りに位置し、南半分は調査区外にある。建物の北半分にあたる半円形の掘り込みを検出した。検出部分で南北幅 2.25m、東西幅 4.15m を測り、本建物跡の平面形が円形を呈するならば、直径は約 4.20m と推定できる。周溝は検出されない。調査区南壁のセクションで、壁が緩く立ち上がる様子が確認され、壁の上端から床面までの深さは 50cm ほどを測る。

覆土　黒色土を主体とする自然堆積である。

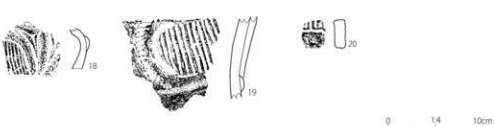
柱穴・ピット　建物内で検出した 5 基のピット（Pit01 ～ 05）を本建物跡に伴うピットと考える。東寄りに 2 基、西寄りに 3 基が集中し、規則的な配置は認められず、柱穴の特定は出来ない。

炉　検出部分では確認されない。調査区南壁セクションで、床面より約 20cm の深さの掘り込みが認められ、覆土に焼土粒子が含まれることから、ここに炉が存在する可能性はある。

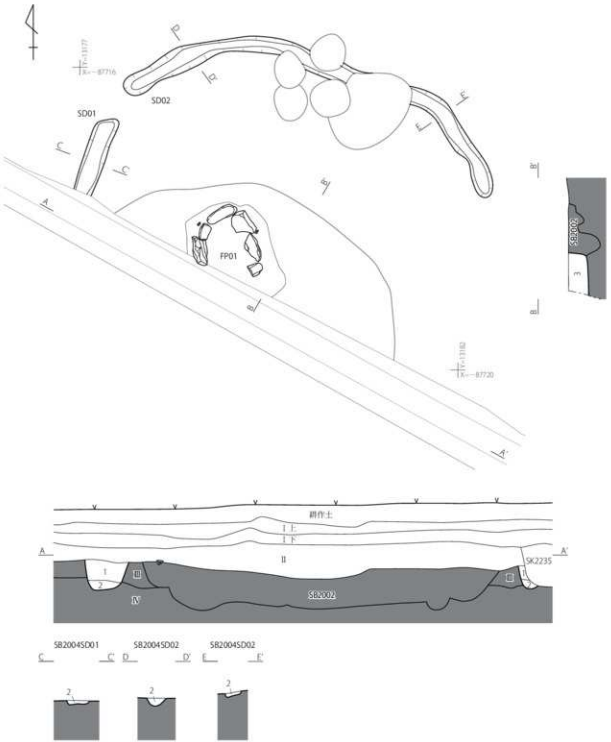
遺物　2 点の土器と 1 点の土製品を図示した。18 は藤内式の土器である。綾杉状刺突文を伴う隆帯 3 本が縦位条線を区画し、隆帯間に三叉文を施文する。19 は楕円区画文で、井戸尻式。20 は遺構内ピットの Pit05 から出土した土製円盤。縄文中期の所産であろう。

SB2004

残存状況　本調査区の中央、南寄りに位置し、南半分は調査区外にある。SB2002 の掘削中に石囲炉（SB2004FP01）を検出した。その後、周囲に検出した弧を描く溝を、SB2004 の周溝と認定する。周溝は平面的には西から北にかけての部分的な検出であるが、調査区南壁セクションで、連続するものとみられる溝の断面が確認されたことで、直径 6.25 m ほどの円形を呈すると推定できる。断面で確認できる周溝は幅 56cm、深さ 40cm を測るが、床面は確認されない。



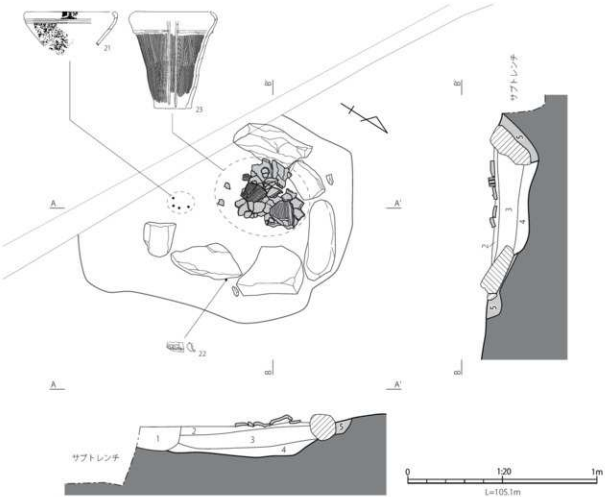
第 22 図　SB2003　出土遺物実測図



1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。　SB2004 溝覆土
2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に含む。　SB2004 溝覆土
3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。ローム粒子を多量に含む。　SB2004FP01 掘り方埋土

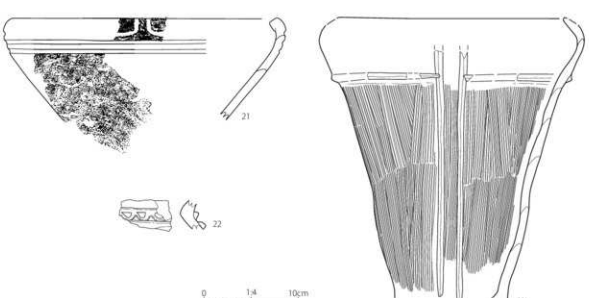
0　1:50　2m
L=105.4m

第 23 図　SB2004



1	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子多量含む。	SB2004FP01 石の抜取り痕
2	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。焼土・炭化材少量含む。	SB2004FP01 使用中の覆土
3	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。焼土・炭化材多量含む。	SB2004FP01 使用中の覆土
4	黒褐色（7.5YR2/2）	しまりややあり、粘性ややあり。焼土・炭化材少量含む。	SB2004FP01 使用中の覆土
5	黒褐色（7.5YR3/2）	しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子少量含む。	SB2004FP01 掘り方埋土

第 24 図　SB2004FP01



第 25 図　SB2004　出土遺物実測図

覆土　壁溝の覆土は黒褐色土である。

柱穴・ピット　本建物跡に伴うと考えられるピットは検出されない。

炉　床面の中央やや西寄りにあたると推定できるところに位置する。南側の炉石が一部失われているが、石の抜取り痕が確認できる。長軸 145cm、短軸 110cm、深さ 20cm ほどの掘り方に、黒褐色土を掘り方埋土とし、20cm から 40cm ほどの石を楕円形に並べている。炉の規模は炉石の内側で南北推定 70cm、東西推定 50cm、深さ 16cm を測る。炉の覆土上面からは曽利Ⅳ式期の深鉢の胴部破片が出土している。

遺物　3 点の土器を図示した。いずれも FP01 からの出土で、曽利式にあたる。21 は浅鉢で、口縁部に沈線による方形状の区画が見られる。22 は波状隆帯を貼付する深鉢頸部。23 は胴部全体に縦位条線を施す。口縁部は無紋となる。曽利Ⅳ式。

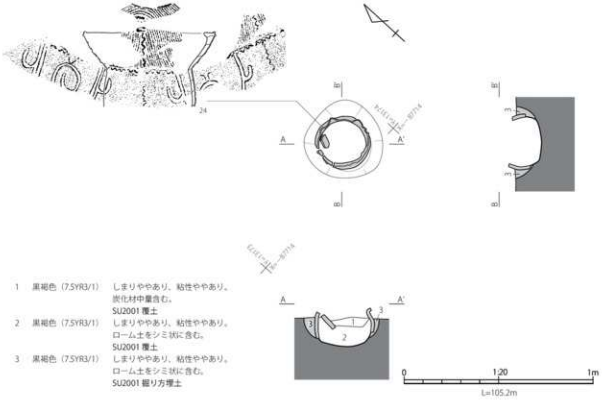
埋甕土坑

SU2001

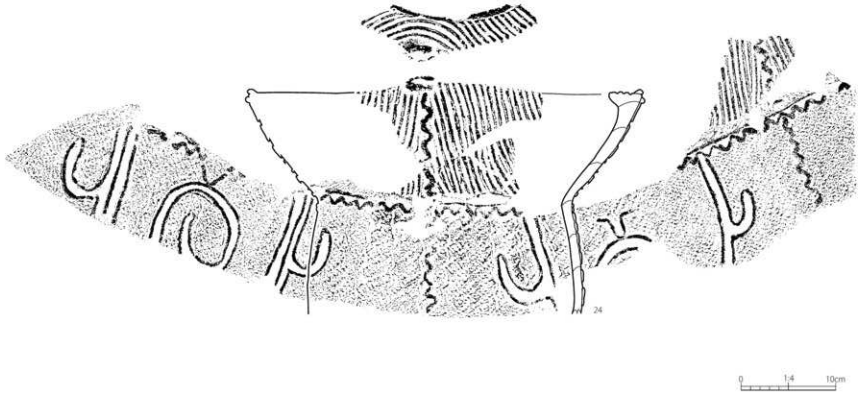
残存状況　調査区の中央西寄り、SB2001 の西 50cm ほどに位置する。土坑の規模は、直径 40cm、検出面からの深さ 16cm を測る。土坑の底面に接して、曽利Ⅱ式期とみられる深鉢の上半分を正位で据えている。土坑検出時には頭部から下の部分しか残存していなかったが、室内整理作業時に同一個体の口縁部破片が確認されたことから、もともとは口縁部を含む深鉢の上半分が埋納されていた可能性がある。

覆土　黒褐色土が堆積し、上層には炭化材が含まれる。

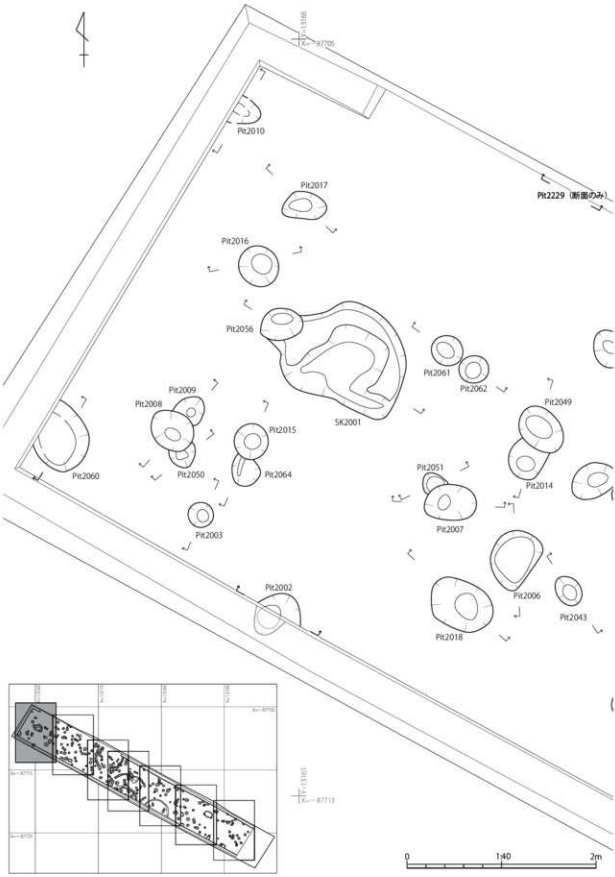
遺物　口縁部は竹管工具による平行沈線で、重弧文を形成する。胴部は縄文を施文し、下垂するモチーフ内は縄文磨消しとなる。粘土紐による波状隆帯を縦位と横位に貼付し、綾絡文も見られる。曽利Ⅱ式に帰属するものである。輪積み痕を破断面とし、下部が欠損している。



第 26 図　SU2001



第 27 図　SU2001　出土遺物実測図

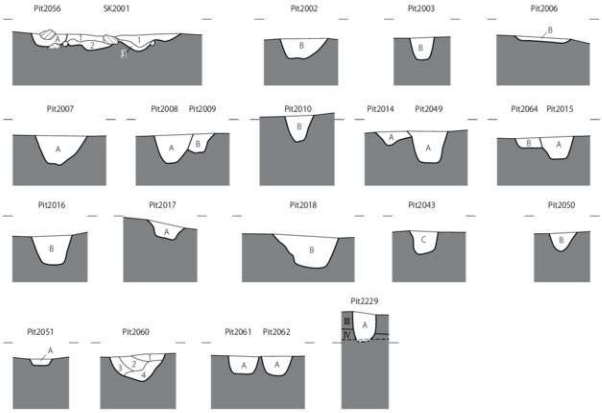


第28図　土坑・ピット　平面図1

土坑・ピット

本調査区全域に散在する土坑5基、ピット229基を検出した。土坑とピットには連続する番号を付与し、一部欠番もある。遺構の規模等は一覧表に示す。建物を構成するような配列、組み合わせは明確に確認できない。

遺物　11点の土器と3点の土製品、6点の石器を図示した。25～29は井戸尻式である。25はPit2172から出土した眼鏡状突起。26はPit2229出土で幅広隆帯が円形を呈している。27は把手部分で、Pit2135からの出土である。28はPit2233からの出土で、渦巻文を施文する。29はLR縄文を地紋とし、連続刺突文を伴う隆帯を貼付する。SK2235からの出土である。30～33は曽利式に帰属する。30はPit2108からの出土で、横位隆帯を境として、上部は無紋、下部は竹管による縦位沈線。31は曽利Ⅱ～Ⅲ式でPit2176の出土である。32はつなぎ渦巻状を呈する隆帯がみられる。Pit2043の出土である。33はPit2172からの出土で曽利Ⅳ式に属する。内湾する口縁で、縦位沈線を施文する。34はPit2034からの出土で、時期は縄文中期にあたるものと考えられる。35は胎土が粗く、内面に煤が付着する。条線をミガキによって磨り消しており、時期は不明。36～38は土製円盤である。いずれも縄文中期に属するものと考えられる。



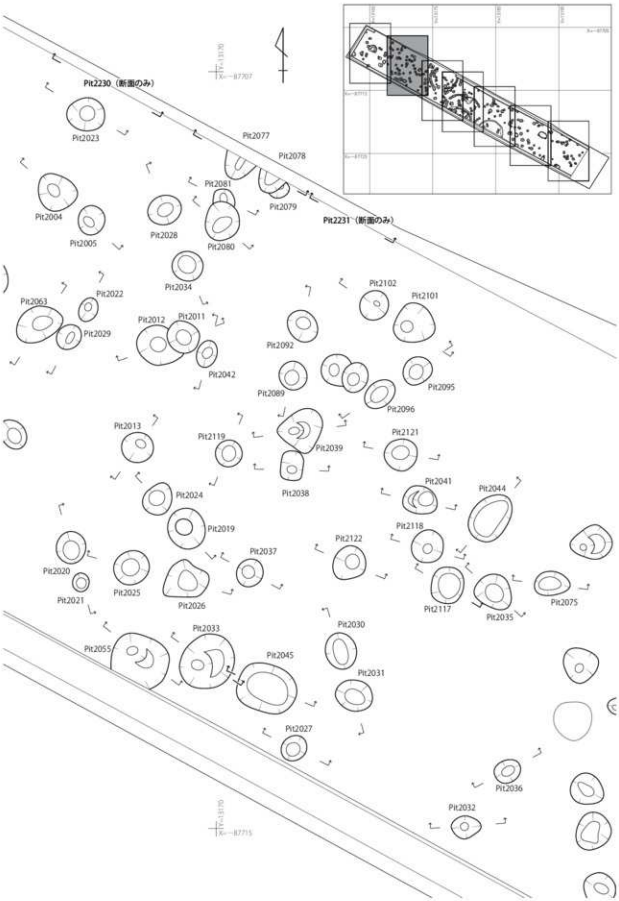
ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。褐色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。

SK2001覆土　1　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子・炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子・炭化材を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子少量含む。炭化材なし。

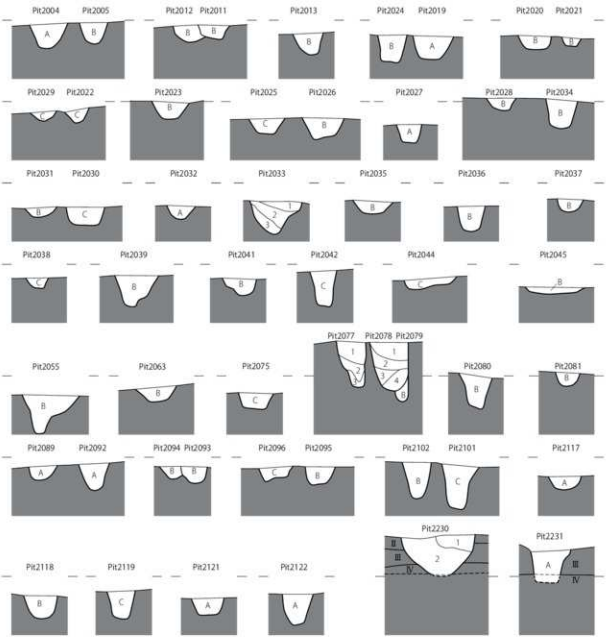
Pit2060覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。橙色粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。炭化材を少量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。炭化材を少量含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

第29図　土坑・ピット　セクション図1



第30図　土坑・ピット　平面図2



ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。黒色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。

Pit2033 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色スコリアを中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色スコリアを少量含む。ロームが混ざる。
　　3　黒褐色（7.5YR3/3）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土主体。

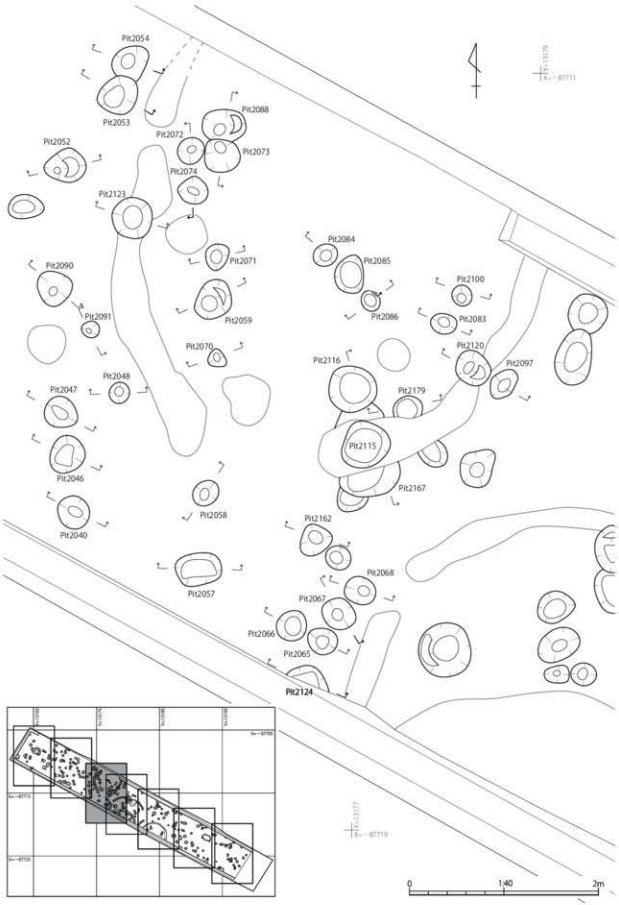
Pit2077 覆土　1　暗褐色（7.5YR4/2）　しまりややあり、粘性ややあり。
　　2　暗褐色（7.5YR4/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　3　暗褐色（7.5YR4/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。

Pit2078 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に少量含む。
　　2　暗褐色（7.5YR4/2）　しまりややあり、粘性ややあり。
　　3　暗褐色（7.5YR4/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に中量含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。炭化材を少量含む。

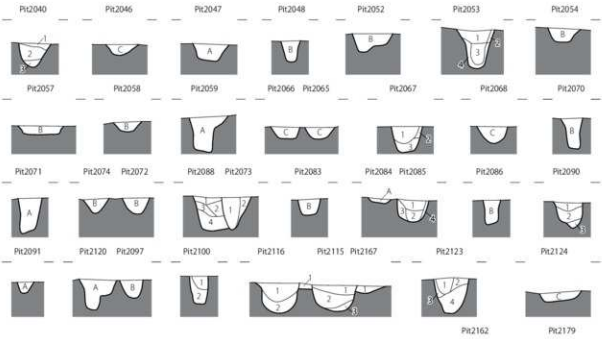
Pit2230 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックをシミ状に含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。焼土粒子を少量含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

第 31 図　土坑・ピット　セクション図 2



第32図　土坑・ピット　平面図3



ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。栗色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。

Pit2040 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色スコリアを少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム ブロックを少量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム ブロックを少量含む。

Pit2053 覆土　1　暗褐色（7.5YR2/3）　しまりややあり、粘性ややあり。橙色粒子少量。炭化材中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。混ざりなし。柱痕か。
　　4　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。

Pit2067 覆土　1　黒　色（7.5YR1.7/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ロームをシミ状に含む。

Pit2073 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

Pit2088 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・赤色粒子を多量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム ブロックを少量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。混ざりなし。

Pit2085 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。炭化材を少量、ローム粒子を中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

Pit2090 覆土　1　黒　色（7.5YR2/1）　しまりあり、粘性ややあり。橙色粒子・炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム ブロックを多量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム ブロックを少量含む。

Pit2100 覆土　1　黒　色（7.5YR2/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム ブロック・ローム粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

Pit2115 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム ブロックをシミ状に含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム ブロックを中量含む。

Pit2116 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を多量、炭化材を中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム ブロック・炭化材を中量含む。

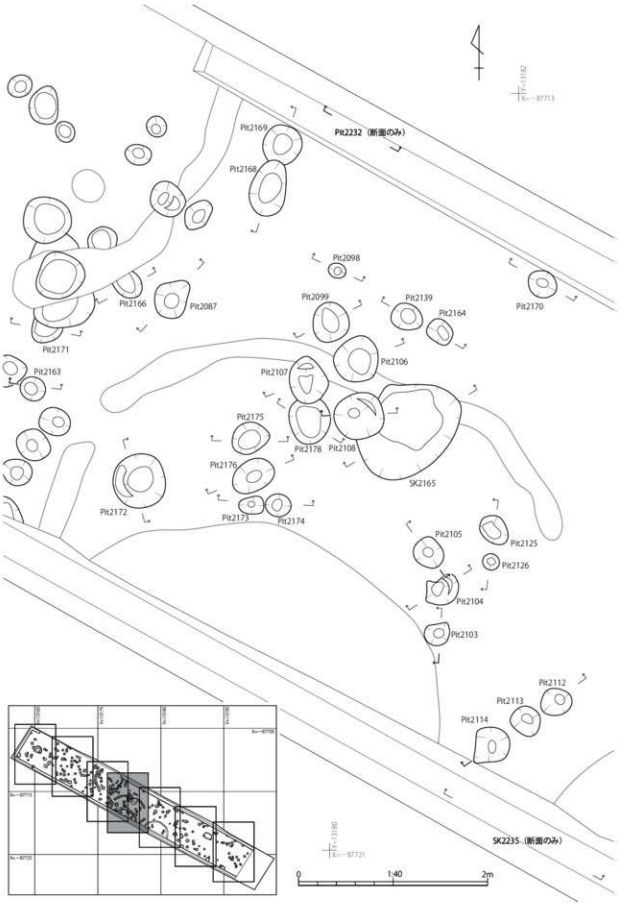
Pit2167 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。

Pit2123 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム ブロックをシミ状に含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。炭化材・ローム粒子を少量含む。

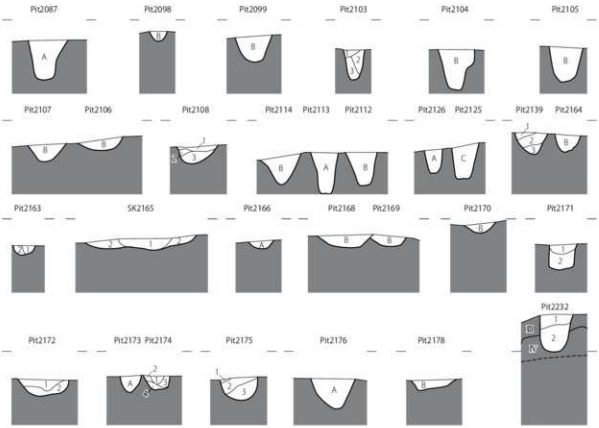
Pit2162 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を少量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を少量含む。

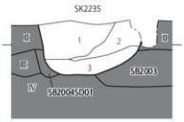
0　1:40　2m
L=105.3m

第 33 図　土坑・ピット　セクション図 3



第34図　土坑・ピット　平面図4





ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。褐色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。

Pit2163 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ロームブロックをシミ状に含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を少量含む。

Pit2171 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を多量含む。

Pit2103 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性あり。径 5cm 大の石混入。
　　3　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性あり。ローム粒子を少量含む。

Pit2108 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。

Pit2139 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を多量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム土をシミ状に含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ロームブロックを少量含む。

SK2165 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を多量、土器を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を含まない。

Pit2172 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。
　　2　暗褐色（7.5YR3/3）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム土体。

Pit2174 覆土　1　黒　色（7.5YR2/1）　しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を少量含む。
　　2　暗褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。
　　3　暗褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。
　　4　暗褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム土をシミ状に含む。

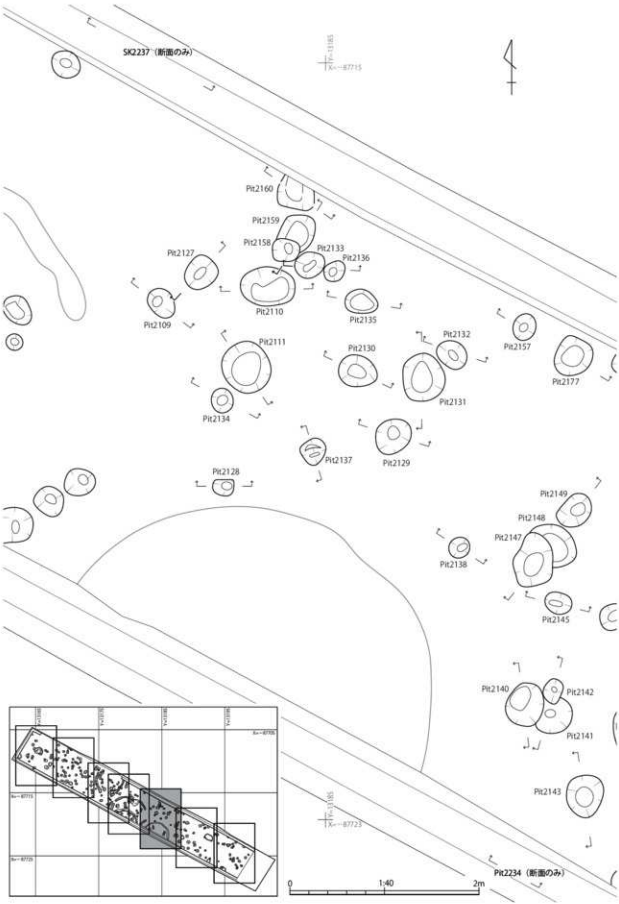
Pit2175 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を中量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり、ロームブロックを多量含む。

Pit2232 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性やや弱。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり、ローム粒子を中量含む。

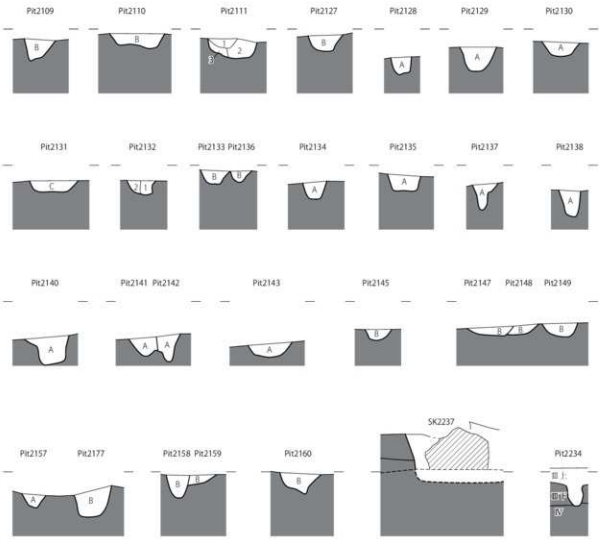
SK2235 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり、橙色スコリアを中量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。
　　3　極暗褐色（7.5YR2/3）しまりややあり、粘性ややあり、炭化材を中量、ロームブロックを少量含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

第 35 図　土坑・ピット　セクション図 4



第36図　土坑・ピット　平面図5



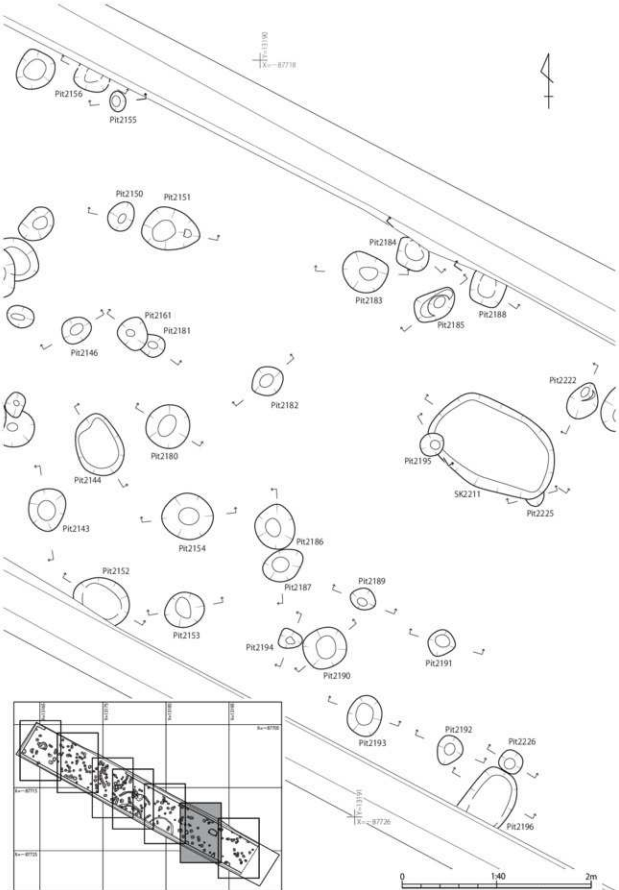
ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。栗色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR2/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。

Pit2111 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム粒子を多量含む。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性ややあり。ローム土を多量含む。

Pit2132 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を多量含む。柱痕か。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

第 37 図　土坑・ピット　セクション図 5



第38図　土坑・ピット　平面図6

ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。黒色土が主体。
B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。

Pit2184 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を少量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

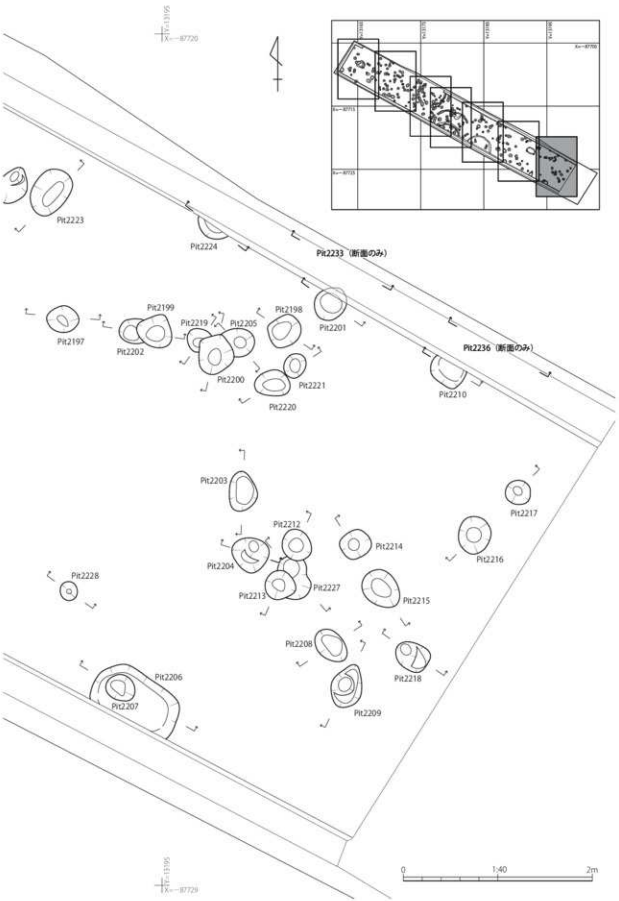
Pit2188 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子・ローム粒子を多量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを多量含む。
3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロックを少量含む。

Pit2190 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

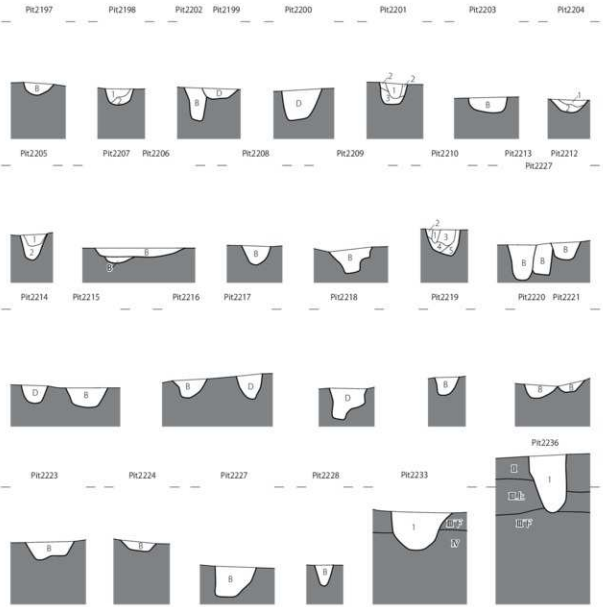
SK2211 覆土　1　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。赤色粒子を少量含む。
3　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。黒色土をシミ状に含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

第 39 図　土坑・ピット　セクション図 6



第40図　土坑・ピット　平面図7



ピット覆土　A　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり、粘性あり。橙色スコリア多量含む。栗色土が主体。
　　B　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。YL が混ざる。
　　C　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりあり、粘性あり。
　　D　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。

Pit2198 覆土　1　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を多量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土主体。黒色土をシミ状に含む。

Pit2204 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。

Pit2205 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。黒色土主体にローム土をシミ状に含む。
　　2　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土主体に黒色土をシミ状に含む。

Pit2210 覆土　1　黒褐色（7.5YR2/2）　しまりややあり、粘性ややあり。中心に柱痕か。
　　2　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック混入。
　　3　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を少量含む。
　　4　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ロームブロック・ローム粒子を中量含む。
　　5　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム土をシミ状に含む。

Pit2233 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/1）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子・焼土粒子を中量含む。

Pit2236 覆土　1　黒褐色（7.5YR3/2）　しまりややあり、粘性ややあり。ローム粒子を中量含む。

0　1:40　2m
L=105.3m

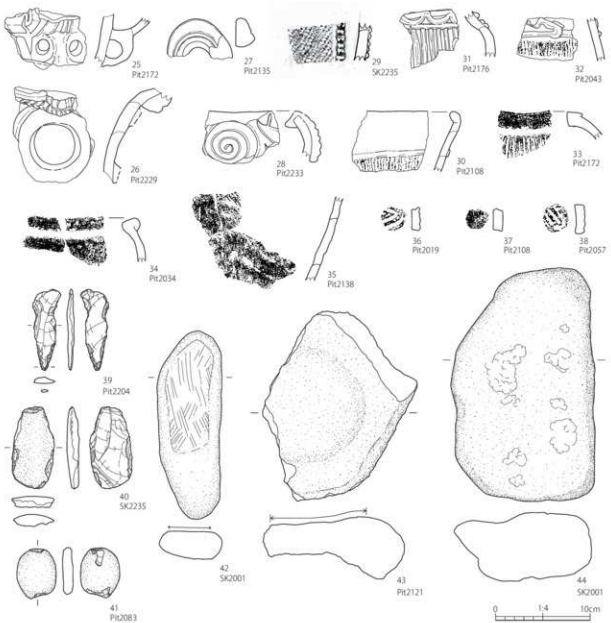
第 41 図　土坑・ピット　セクション図 7

39 は Pit2204 から出土した石匙で、縦型の両刃である。40 は頁岩製の打製石斧。SK2235 からの出土である。裏面には自然面が残存する。41 は頁岩製の石錘。42 は砂岩製の磨石で、上半部に研磨痕がみられる。43 は石皿、44 は安山岩製の台石である。

包含層出土遺物

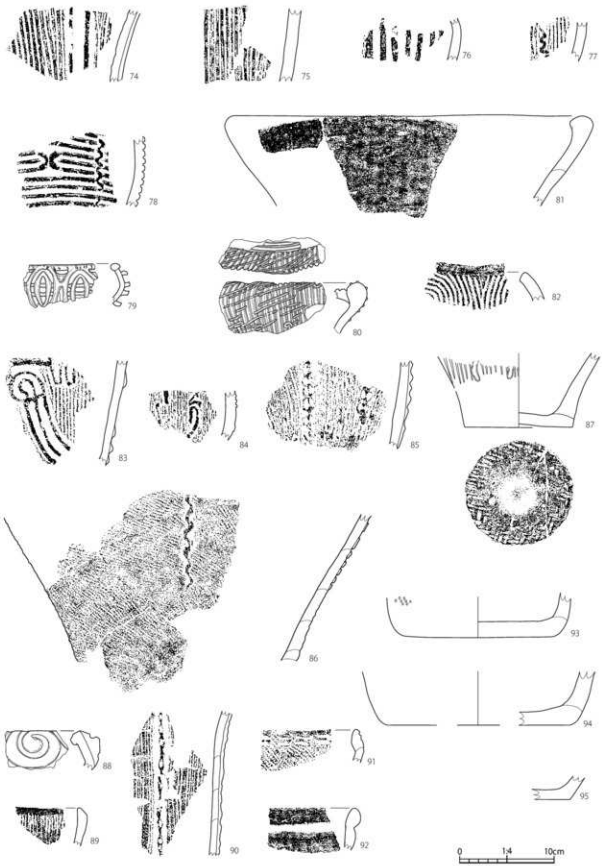
51 点の土器と 8 点の石器を図示した。45 は藤内式で、連続爪形刺突文を伴う楕円形区画文。46 は沈線による重三角区画文で、沈線脇にはキャタピラー文を施す。藤内～井戸尻に属する。47 は沈線を伴う肥厚隆帯を横位に貼付し、連続爪形刺突文を施した隆帯が斜位に下垂する。48 は横位隆帯に半円状の突起を貼付する。49 は眼鏡状突起。

50 ～ 61 は井戸尻式に帰属する。50 は深鉢の把手で、突起がかなり強調された構成となっている。51 も把手の一部と考えられる。52 は無紋口縁で、端部が鋭角に内折する。53、54 は粘土紐を編み上げ



第 42 図　土坑・ピット　出土遺物実測図

第 43 図　本調査　包含層　出土遺物実測図 1

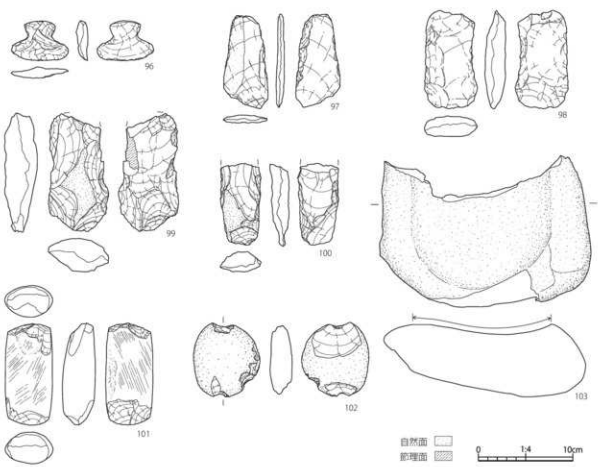


第44図　本調査　包含層　出土遺物実測図2

て形成した隆帯を貼付する。55は2本の隆帯が波状を呈して下垂する。56は円形文、57は沈線による渦巻文を施文する。58は沈線による長方形区画を施した口縁部である。59は地紋である縄文を沈線で区画し磨消しを行っている。60は縦位沈線を充填させた楕円形区画文である。61は口縁部で、端部に連続爪形刺突文を施す。

62は水煙把手。粘土紐を貼付し、同心円や波状を表現している。曽利Ⅰ式の所産である。63は無紋口縁で、頸部に横位の波状隆帯を貼付する。曽利Ⅰ式の典型的な特徴を表している。64～67は無紋口縁。68は連続刺突文様帯を境として、上部は縦位沈線、下部は無紋である。69～72は波状隆帯を多重に貼付する。73は断面三角形を呈する隆帯を縦位に貼付する。74、75は半截竹管による縦位平行沈線が施文され、76には幅広の平行沈線がみられる。77は縦位平行沈線に加え、波状隆帯を貼付する。78は横位沈線を施し、縦位の波状隆帯で区画する。X字状の貼付浮文がある。79は粘土紐による横位隆帯や重弧文を重ね、透かし構造の文様帯を形成する。一部、朱が残存する。80は縦位沈線の上に粘土紐を斜位に貼付した口縁部で、曽利Ⅱ式で見られる構成である。81は曽利Ⅱ～Ⅲ式に属する無紋口縁である。82は重弧文を呈するとみられる平行沈線を施文した口縁部である。83、84は隆帯によるモチーフを貼付する。85は縦位条線を地紋とし、多截竹管工具による連続刺突文を施した縦位隆帯を貼付している。86は縄文を地紋とする。87は底面に網代痕を持つ深鉢底部。88は渦巻文。曽利式に属するものか。89、90は曽利Ⅳ式。91は端部に竹管による施文がある。92は肥厚した口縁部で、時期は不明。93は曽利式、94、95は縄文中期に位置づけられる底部である。

96は石匙で、刃は横型に作られている。97～100は打製石斧、101は磨製石斧である。102は石錘で、上下に凹部がみられる。103は安山岩製の石皿。



第45図　本調査　包含層　出土遺物実測図3

第４章　総括

調査成果

今回の調査において検出した遺構は、確認調査で竪穴建物跡２軒、土坑３基、ピット５基、本調査では竪穴建物跡４軒、埋甕土坑１基、土坑・ピット234基を検出した。このうち確認調査２トレンチで検出した土坑２基は、本調査におけるピットや土坑、周溝に対応することが判明している。よって、確認調査と本調査合わせて６軒の竪穴建物跡、240基の土坑・ピットを確認したことになる。竪穴建物跡の時期については、確認調査で検出したSB1001が曽利式期の前半期を中心としており、SB1002については遺物の出土がないため、時期の特定は困難である。本調査のSB2001は曽利Ⅲ式にあたると考えられる。SB2002は勝坂式でも古い土器が見られ、曽利式の土器も出土しているため、ここでは曽利Ⅰ～Ⅱ式としておくが、やや遡る可能性もある。SB2003は藤内～井戸尻式、SB2004は曽利式の中頃と比定できる。なお、SB2002とSB2004は切り合い関係にある。

遺物については勝坂式を中心とした中期～後期の土器を得ることができた。ここから過去の見解をもとに、今回の調査成果を振り返りたい。

天間沢遺跡の動態

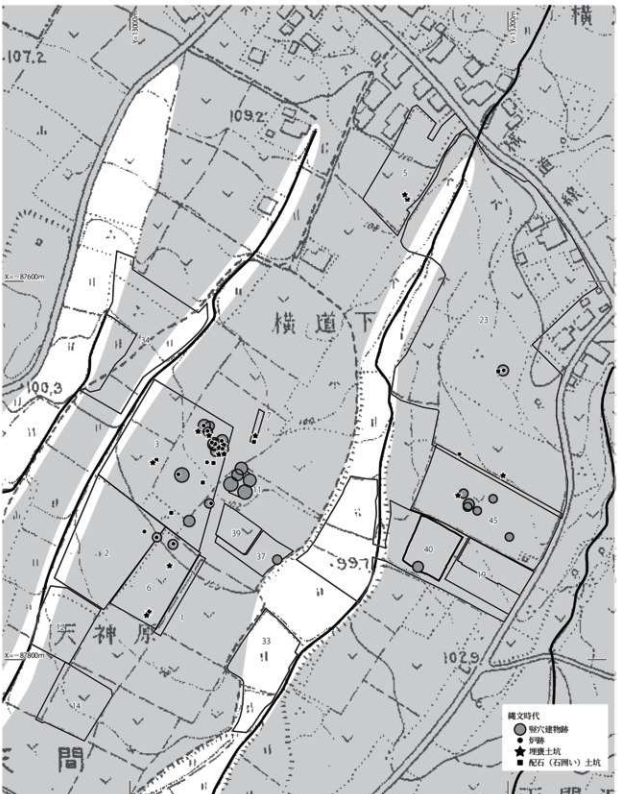
天間沢遺跡の発掘調査は、昭和35年に１次調査が実施されて以降、本報告までで45地点57回の調査が行われている。１次調査は、のちの第６地区にあたる７次調査地点の一部を対象としており、縄文時代中期の配石遺構を検出したという記録が残る。その後の第１～３地区の調査（A～C地区・第２次～４次調査）および第６地区（F地区・第７次調査）は、現在の市立天間幼稚園や市営住宅天間団地にあたり、今回の調査地からは西の谷下に望むことができる。これらの調査区では、縄文時代中期を中心とした竪穴住居跡等の遺構が確認されており、その遺構の変遷については、既に過去の報告書で述べられている（富士市教育委員会1985）。遺構はおおむね井戸尻～曽利式にあたり、その密度からいっても、この地区が中期集落の中心であったことは想像に難くない。

中期を通じて変遷が辿れるA～C、F地区とは対象的に、その東の谷上に位置する第23地区、第40地区、本調査地では、異なった様相が見られる。第23地区の調査では、井戸尻式を主とする勝坂式の遺物が中心で、曽利式は少ない傾向にあった。かつての報告書では、この近辺における曽利Ⅳ～Ⅴ期は遺物がなく、この時期を人間活動が認められない空白期としている。のちの第40地区の調査では、ごく僅かにその時期の遺物が見られるが、やはり勝坂式期に比べると大幅に減少している。

この第40地区の北にあたるのが今回の調査地であるが、遺物は井戸尻式期の割合が高いものの、一定量の曽利式土器が出土し、同時期の竪穴建物跡も確認された。しかし、曽利式の中でもⅠ～Ⅲ期までが大半を占めており、Ⅳ～Ⅴ期のものとなると極端に減少している。すなわち、谷上において行われた三度の調査で、いずれも同様の結果が得られたことになる。

こうした中期の様相が変化するのは、後期に入ってからである。それまで連綿と集落が形成され続けたA～C、F地区では、突然人的活動が停止する。後期にあたる称名寺式や堀之内式の土器が、この地区では見られないのである。代わって谷上にあたる本調査地付近では、数は少ないものの後期の遺物が出土しており、この時期に属すると考えられる遺構も確認されている。これらだけで集落の動態を語ることは出来ないが、ひとつの傾向として捉えることは可能であろう。

なお、A～C、F地区と本調査地の間の谷は、南へ進むと除々に高さを減じ、現在の天間まちづくりセンター付近で谷は消滅して地続きとなる。この辺りは第17地区、第32地区の調査が行われているが、早期の茅山下層式土器が出土するなど、集落内でも古い様相を示す。また、第47地区の調査においても、早期の土器が確認されている。天間沢集落の萌芽は、おそらく遺跡の南部で起こったものと考えられる。



※この図は、遺構分布状況を模式的に示すもので、各遺構の位置・規模・主軸方位等については厳密では無い。
※地図は、昭和41年6月測図、鹿岡町役場発行「鹿岡町1」を使用した。

0 1/2,000 100m

第46図　天間沢遺跡　縄文時代遺構分布状況模式図

また、A ～ C、F 地区では勝坂式の古式段階の新道、狢沢式期の土器がほとんど見られないのに対し、本調査地付近ではこの時期の土器がたびたび出土している。このことも、各地区の特徴を示すものとなり得るのではないか。

このような変遷を辿りながらも、天間沢の集落は堀之内式期には終焉を迎え、人々は新天地へと拡散していったと考えられる。再び天間沢地域に人が住み始めるのは、古墳時代に入ってからであり、この時期の遺構が遺跡内の各所で確認されている。

まとめとして

今回の調査は、これまでの天間沢遺跡調査によって得られた見解をさらに裏付けるものになったといえる。しかし、過去に行われた調査には未報告のものもあり、昭和期に刊行した報告書においても、出土遺物をどこまで網羅しているか疑問が残る。よって、一概にこの限りとは言えないのが現状である。これらの問題については今後の報告を待って再考することとし、この他に富士市内の周辺遺跡や富士宮市城の集落動態に目を向け、検討を重ねていくことが必要となろう。

参考文献

富士市教育委員会 1984『天間沢遺跡Ⅰ　遺構編』
富士市教育委員会 1985『天間沢遺跡Ⅱ　遺物・考察編』
富士市教育委員会 2016『天間沢遺跡』富士市埋蔵文化財調査報告第 58 集

付　　表

土坑・ピット一覧表
出土遺物観察表

※　遺構・遺物ともに、法量の（　）は残存値、〔　〕は推定値である。
※　残存率は図示中での残存率を示した。

土坑・ピット一覧表

種別	番号	出土遺物（挿図番号）	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	断面形	土層	切り合い関係（古→新）	備考
SK	2001	R0074（42）.0075（44）.0050.0080.0180	(130)	102	20	不整形	A	SK2001 → Pit2056	
Pit	2002		(49)	49	21	逆台形	B		
Pit	2003		25	24	23	逆台形	B		
Pit	2004	R0051	40	33	26	U 字形	A		
Pit	2005		29	27	24	U 字形	B		
Pit	2006	R0052	59	53	4	逆台形	B		
Pit	2007	R0053	54	35	31	逆台形	A	Pit2051 → Pit2007	
Pit	2008	R0054	45	39	30	逆台形	A	Pit2009.Pit2050 → Pit2008	
Pit	2009		27	(23)	20	逆台形	B	Pit2009 → Pit2008	
Pit	2010	R0055	30	(19)	25	U 字形	B		
Pit	2011		33	33	15	逆台形	B	Pit2012 → Pit2011	
Pit	2012	R0056.0081	42	(38)	20	逆台形	B	Pit2012 → Pit2011	
Pit	2013		32	30	24	U 字形	B		
Pit	2014	R0057	(37)	37	15	逆台形	A	Pit2014 → Pit2049	
Pit	2015	R0058	35	35	24	逆台形	A	Pit2064 → Pit2015	
Pit	2016		45	42	34	逆台形	B		
Pit	2017		46	30	18	逆台形	A		
Pit	2018	R0082	68	50	33	逆台形	B		
Pit	2019	R0083（36）	40	38	25	逆台形	A		
Pit	2020		34	32	15	逆台形	B		
Pit	2021		19	17	10	逆台形	B		
Pit	2022		24	20	15	U 字形	C		
Pit	2023		36	35	21	逆台形	B		
Pit	2024		33	28	29	逆台形	B		
Pit	2025		36	35	18	逆台形	C		
Pit	2026	R0084	43	40	24	逆台形	B		
Pit	2027		27	25	20	逆台形	A		
Pit	2028		34	30	14	逆台形	B		
Pit	2029		26	22	10	逆台形	C		
Pit	2030		39	30	20	逆台形	C		
Pit	2031		36	34	10	逆台形	B		
Pit	2032		29	22	14	逆台形	A		
Pit	2033	R0060.0085	59	55	35	U 字形	A		
Pit	2034	R0059.0086（34）	30	30	30	逆台形	B		
Pit	2035		39	34	14	逆台形	B		
Pit	2036		28	23	27	U 字形	B		
Pit	2037		28	27	14	逆台形	B		
Pit	2038		30	24	12	逆台形	C		
Pit	2039	R0087	45	45	33	U 字形	B		
Pit	2040		34	30	28	逆台形	B		
Pit	2041		35	28	19	逆台形	B		
Pit	2042		27	21	37	U 字形	C		
Pit	2043	R0061（32）	31	25	23	逆台形	C		
Pit	2044	R0088	54	37	11	逆台形	C		
Pit	2045		62	49	9	逆台形	B		
Pit	2046		37	35	11	逆台形	C		
Pit	2047		36	30	18	逆台形	A		
Pit	2048		21	20	21	U 字形	B		
Pit	2049		52	39	33	逆台形	A	Pit2014 → Pit2049	
Pit	2050		(24)	27	23	U 字形	B	Pit2008 → Pit2050	
Pit	2051		22	(19)	10	逆台形	A	Pit2051 → Pit2007	
Pit	2052		42	33	19	逆台形	B		
Pit	2053	R0079.0089	41	38	43	逆台形	A	Pit2054 → Pit2053	
Pit	2054		(36)	34	14	逆台形	B	Pit2054 → Pit2053	
Pit	2055	R0090	60	(48)	39	U 字形	B		
Pit	2056	R0076.0077	45	35	25	U 字形	A	SK2001 → Pit2056	
Pit	2057	R0091（38）	48	33	10	逆台形	B		
Pit	2058		28	25	10	逆台形	B		
Pit	2059	R0092	40	35	37	逆台形	A		
Pit	2060		60	(55)	27	逆台形	A		
Pit	2061		34	30	20	逆台形	A		
Pit	2062	R0181	29	27	21	逆台形	A		
Pit	2063	R0097	46	34	15	逆台形	B		
Pit	2064		(29)	29	11	逆台形	B	Pit2064 → Pit2015	

種別	番号	出土遺物（挿図番号）	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	断面形	土層	切り合い関係（古→新）	備考
Pit	2065		30	26	13	逆台形	C		
Pit	2066		32	30	13	逆台形	C		
Pit	2067		36	30	31	逆台形	B		
Pit	2068		33	28	18	逆台形	C		
Pit	2069								欠番
Pit	2070		20	17	33	U字形	B		
Pit	2071		25	22	35	逆台形	A		
Pit	2072		26	26	16	U字形	B		
Pit	2073		38	36	35	U字形	A	Pit2088 → Pit2073	
Pit	2074		33	27	15	逆台形	B		
Pit	2075		34	25	17	逆台形	C		
Pit	2076								欠番
Pit	2077		(25)	34	19	U字形	A		
Pit	2078		(23)	(20)	19	(U字形)	A	Pit2079 → Pit2078	
Pit	2079		(18)	13	38	U字形	A	Pit2079 → Pit2078	
Pit	2080	R0106	40	32	35	U字形	B	Pit2081 → Pit2080	
Pit	2081		(20)	24	15	逆台形	B	Pit2081 → Pit2080	
Pit	2082								欠番
Pit	2083	R0096.0127（41）	24	21	18	逆台形	B		
Pit	2084		26	23	7	逆台形	A		
Pit	2085	R0128	38	31	26	逆台形	B		
Pit	2086	R0129	22	17	25	逆台形	B		
Pit	2087	R0130	39	37	42	逆台形	A		
Pit	2088		45	(30)	39	逆台形	B	Pit2088 → Pit2073	
Pit	2089		28	28	15	逆台形	A		
Pit	2090		33	32	30	U字形	A		
Pit	2091		17	17	12	逆台形	A		
Pit	2092		30	29	29	逆台形	A		
Pit	2093		30	26	19	逆台形	B	Pit2094 → Pit2093	
Pit	2094		33	(28)	15	逆台形	B	Pit2094 → Pit2093	
Pit	2095		30	28	20	逆台形	B		
Pit	2096		32	25	12	逆台形	C		
Pit	2097	R0131	32	22	19	逆台形	B		
Pit	2098		18	14	10	逆台形	B		
Pit	2099		39	35	28	逆台形	B		
Pit	2100	R0132	22	20	32	U字形	B		
Pit	2101		43	38	48	U字形	C		
Pit	2102		30	30	40	U字形	B		
Pit	2103		26	26	33	逆台形	A		
Pit	2104	R0150	36	30	42	逆台形	B		
Pit	2105		36	27	36	逆台形	B		
Pit	2106	R0121	48	40	18	逆台形	B	SB2004SD02 → Pit2106	
Pit	2107		50	45	12	逆台形	B	SB2004SD02 → Pit2107	
Pit	2108	R0122（37）.0144（30）	52	49	38	U字形	A	SB2004SD02.SK2165 → Pit2108	
Pit	2109		34	26	21	逆台形	B		
Pit	2110	R0184	58	42	16	逆台形	B		
Pit	2111		53	49	23	逆台形	B		
Pit	2112	R0185	31	29	35	U字形	B		
Pit	2113		31	28	44	U字形	A		
Pit	2114		41	36	32	U字形	B		
Pit	2115		48	48	20	逆台形	B	Pit2167 → SB2001SD02 → Pit2115	
Pit	2116		52	48	32	逆台形	B		
Pit	2117	R0123	38	34	16	逆台形	A		
Pit	2118		34	34	26	逆台形	B		
Pit	2119	R0107	29	26	31	逆台形	C		
Pit	2120	R0124	39	32	32	逆台形	A	SB2001SD02 → Pit2120	
Pit	2121	R0103（43）.0104.0105	33	33	18	逆台形	A		
Pit	2122		32	32	34	U字形	A		
Pit	2123	R0125	41	41	39	逆台形	B	SB2001SD01 → Pit2123	
Pit	2124		44	(17)	12	逆台形	C		
Pit	2125	R0109	34	24	36	逆台形	C		
Pit	2126		16	16	25	U字形	A		
Pit	2127	R0108	37	32	17	逆台形	B		
Pit	2128	R0186	22	22	18	逆台形	A		
Pit	2129	R0211	38	37	26	逆台形	A		
Pit	2130		38	33	15	逆台形	A		

種別	番号	出土遺物（掲図番号）	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	断面形	土層	切り合い関係（古→新）	備考
Pit	2131		49	43	13	逆台形	C		
Pit	2132	R0190	33	26	17	U字形	B		
Pit	2133		31	26	15	逆台形	B		
Pit	2134		23	24	19	逆台形	A		
Pit	2135	R0111（27）.0189	34	27	18	逆台形	A		
Pit	2136		22	22	13	逆台形	B		
Pit	2137		27	24	27	U字形	A		
Pit	2138	R0112.0117（35）.0191	22	22	29	U字形	A		
Pit	2139	R0160	34	26	33	逆台形	B		
Pit	2140		46	(36)	30	逆台形	A	Pit2141 → Pit2140	
Pit	2141		40	(33)	25	逆台形	A	Pit2141 → Pit2140.Pit2142	
Pit	2142		23	19	28	U字形	A	Pit2141 → Pit2142	
Pit	2143		44	39	15	逆台形	A		
Pit	2144		62	47	15	逆台形	B		
Pit	2145		28	21	11	逆台形	B		
Pit	2146		31	28	15	逆台形	B		
Pit	2147		48	43	9	逆台形	B	Pit2148 → Pit2147	
Pit	2148		51	(36)	11	逆台形	B	Pit2148 → Pit2147	
Pit	2149		38	29	15	逆台形	B		
Pit	2150		31	27	17	逆台形	B		
Pit	2151		60	43	17	逆台形	A		
Pit	2152		60	(39)	14	逆台形	B		
Pit	2153		42	35	22	逆台形	B		
Pit	2154		52	47	13	逆台形	B		
Pit	2155		19	18	19	逆台形	B		
Pit	2156		37	(18)	16	逆台形	B		
Pit	2157		26	26	12	逆台形	A		
Pit	2158		28	26	26	U字形	B	Pit2159 → Pit2158	
Pit	2159		(33)	36	13	逆台形	B	Pit2159 → Pit2158	
Pit	2160		42	(18)	22	逆台形	B		
Pit	2161		31	31	32	U字形	A	Pit2181 → Pit2161	
Pit	2162		31	30	18	逆台形	B		
Pit	2163		27	22	18	逆台形	B		
Pit	2164	R0126	27	22	20	逆台形	B		
SK	2165	R0166	107	87	29	不定形	B	SB2004SD02 → Pit2165 → Pit2108	
Pit	2166		(28)	26	9	逆台形	A	Pit2166 → SB2001SD02	
Pit	2167		(97)	65	10	逆台形	B	Pit2171 → Pit2167 → SB2001SD02.Pit2116	
Pit	2168	R0143	57	37	13	逆台形	B	Pit2169 → Pit2168	
Pit	2169		(40)	39	15	逆台形	B	Pit2169 → Pit2168	
Pit	2170		33	27	12	逆台形	B		
Pit	2171	R0139.0140.0183	(26)	33	28	逆台形	B	Pit2171 → Pit2167	
Pit	2172	R0149（25）.0161.0168（33）.0177	57	55	43	逆台形	B		
Pit	2173	R0162	25	20	17	U字形	A		
Pit	2174	R0163	27	23	19	逆台形	A		
Pit	2175		38	32	26	逆台形	A		
Pit	2176	R0147（31）.0164	43	32	31	逆台形	A		
Pit	2177		40	35	27	逆台形	B		
Pit	2178	R0165	(50)	40	10	逆台形	B	Pit2178 → Pit2107	
Pit	2179		(31)	29	23	逆台形	A	Pit2179 → SB2001SD02	
Pit	2180		46	44	14	逆台形	B		
Pit	2181		(18)	18	23	U字形	A	Pit2181 → Pit2161	
Pit	2182		34	28	29	逆台形	A		
Pit	2183		46	42	26	逆台形	B		
Pit	2184		40	(17)	19	逆台形	A		
Pit	2185		48	31	35	U字形	B		
Pit	2186		46	40	15	逆台形	B		
Pit	2187		40	30	28	逆台形	B		
Pit	2188		40	(30)	34	逆台形	A		
Pit	2189		25	21	14	逆台形	B		
Pit	2190		48	43	24	逆台形	B		
Pit	2191		27	24	23	逆台形	A		
Pit	2192		30	25	15	逆台形	B		
Pit	2193		40	33	9	逆台形	C		
Pit	2194		24	19	12	逆台形	B		
Pit	2195		25	23	11	逆台形	B	SK2211 → Pit2195	
Pit	2196		(57)	50	10	逆台形	C		

種別	番号	出土遺物（挿図番号）	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	断面形	土層	切り合い関係（古→新）	備考
Pit	2197		31	26	13	逆台形	B		
Pit	2198		36	30	20	逆台形	D		
Pit	2199		36	34	11	逆台形	D	Pit2202 → Pit2199	
Pit	2200	R0175	40	35	34	逆台形	D	Pit2219.Pit2205 → Pit2200	
Pit	2201	R0176	36	31	25	逆台形	D		
Pit	2202		(25)	25	34	逆台形	B	Pit2202 → Pit2199	
Pit	2203		38	28	16	逆台形	B		
Pit	2204	R0170（39）.0178	37	35	27	U字形	D		
Pit	2205	R0179	(27)	28	28	逆台形	B	Pit2205 → Pit2200	
Pit	2206		98	(53)	10	逆台形	B	Pit2207 → Pit2206	
Pit	2207		30	26	17	逆台形	B	Pit2207 → Pit2206	
Pit	2208		37	27	20	逆台形	B		
Pit	2209		48	34	26	逆台形	B		
Pit	2210		39	(24)	25	逆台形	B		
SK	2211		136	87	15	逆台形	C	Pit2225 → Pit2211 → Pit2195	
Pit	2212		29	29	19	逆台形	B	Pit2227 → Pit2212	
Pit	2213		28	28	37	逆台形	B	Pit2227 → Pit2213	
Pit	2214		29	26	19	逆台形	D		
Pit	2215		42	33	23	逆台形	B		
Pit	2216		38	32	19	逆台形	B		
Pit	2217		5	24	25	逆台形	D		
Pit	2218		37	28	33	逆台形	D		
Pit	2219		(20)	24	19	逆台形	B	Pit2219 → Pit2200	
Pit	2220		38	26	19	逆台形	B		
Pit	2221		37	22	14	逆台形	B		
Pit	2222		38	27	35	U字形	B		
Pit	2223		51	38	20	逆台形	B		
Pit	2224		36	(12)	10	逆台形	B		
Pit	2225		19	14	43	U字形	C	Pit2225 → Pit2211	
Pit	2226		25	23	8	逆台形	C		
Pit	2227	R0182	44	29	39	逆台形	B	Pit2227 → Pit2212.Pit2213	
Pit	2228		19	18	22	U字形	B		
Pit	2229	R0260.0261（26）	-	-	(30)	(U字形)	A		断面のみ
Pit	2230		-	-	(42)	U字形	A		断面のみ
Pit	2231		-	-	(26)	-	A		断面のみ
Pit	2232		-	-	40	U字形	A		断面のみ
Pit	2233	R0242（28）	-	-	40	U字形	B		断面のみ
Pit	2234	R0202	-	-	20	U字形	-		断面のみ
SK	2235	R0229（29）.0230（40）	-	-	57	逆台形	A		断面のみ
Pit	2236		-	-	60	U字形	-		断面のみ
SK	2237		-	-	(50)	-	-		断面のみ

出土遺物観察表

確認調査

報告番号	挿図 写真図版	遺構名 / トレンチ	層位	R 番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
1	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	5YR6/8（橙色） 5YR6/8（橙色）	井戸尻	縦位平行沈線。粘土紐貼付浮文が一部残存。		
2	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利 I	無紋口縁。端部で肥厚しながら内湾する。		
3	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	5YR5/6（明赤褐色） 5YR4/3（にぶい赤褐色）	曽利 I ～ II	半載竹管による横位沈線。縦位の浮線文を貼付け。		
4	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	7.5YR6/6（橙色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	曽利 II ～ III	浅鉢口縁～胴部。2 本の隆帯による渦巻文。		
5	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	5YR6/6（橙色） 5YR5/6（明赤褐色）	縄文晩期	肩部に 2 本の横位隆帯。隆帯上には 2 条の沈線を施文。隆帯から把手が延びる。一部 LR 縄文。		
6	第 11 図 PL.3	SB1001		R0009	5YR3/6（暗赤褐色） 5YR5/2（灰褐色）	不明	底部。無紋。		
7	第 12 図 PL.3	SK1007		R0003				磨製石斧	砂岩
8	第 13 図 PL.3	4Tr		R0008	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR6/6（橙色）	藤内	口縁部の渦巻状突起。両縁に隆帯。隆帯上に連続刻み文。		
9	第 13 図 PL.3	4Tr		R0008	7.5YR5/4（にぶい褐色） 7.5YR6/4（にぶい橙色）	藤内	曲線を描く低隆帯に沿って両側に沈線。隆帯上および沈線下に連続爪形刺突。上部は横方向に強いナデによって隆帯と爪形文を一部消す。		
10	第 13 図 PL.3	4Tr		R0008	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	藤内	両側に沈線を持つ 2 条の縦位キャタピラー文帯。縦位隆帯貼付け後、棒状工具による連続刺突文を施文。		
11	第 13 図 PL.3	2Tr		R0002	7.5YR6/4（にぶい橙色） 7.5YR6/6（橙色）	井戸尻か	無紋口縁。端部に向かって肥厚。口唇部で平坦な面をつくる。		
12	第 13 図 PL.3	4Tr		R0008	5YR3/3（暗赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	井戸尻か	無紋口縁。内湾し、口唇部は内端部を水平に失らせる。雲母多量に含有。		
13	第 13 図 PL.3	2Tr		R0002	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR6/6（橙色）	井戸尻か	浅鉢口縁～胴部。波状口縁。端部で肥厚する。口唇部に沈線による対の渦巻文を施文。渦巻文の外側の縦位沈線区画を起点とし、横位沈線が延びる。沈線外側にキャタピラー文。		
14	第 13 図 PL.3	4Tr		R0008	5YR6/6（橙色） 5YR6/6（橙色）	井戸尻	深鉢の波状口縁。横位の浅い沈線。口唇部に工字沈線が施され、縦位 2 条の沈線によって区画される。区画沈線は 8 単位とみられるが、口縁の突出は 4 単位。		
15	第 13 図 PL.3	3Tr		R0005	7.5YR4/1（褐灰色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	井戸尻	口縁端部。3 条の横位沈線→幅広突帯貼付→篦状工具による縦位連続刺突文および沈線による渦巻文の順で施文。		
16	第 13 図 PL.3		表採	R0010	5YR5/8（明赤褐色） 5YR4/8（赤褐色）	井戸尻	無紋口縁。直線的に外傾し。器厚を一定に保ったまま端部で内湾。頸部に横位隆帯貼付け。隆帯上に連続刺突文。		
17	第 13 図 PL.3	工事立会		R0270	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR6/4（にぶい橙色）	井戸尻	断面三角形の貼付隆帯。隆帯上部に連続爪形刺突文。隆帯下部に強いナデを施し、その下に 2 条の横位沈線。		
18	第 13 図 PL.3	工事立会		R0270	7.5YR3/1（黒褐色） 5YR3/4（暗赤褐色）	井戸尻	2 本の隆帯間に三叉文。隆帯上には連続刻み文を施文。		
19	第 13 図 PL.3	3Tr		R0005	5YR5/8（明赤褐色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	縄文中期	土製円盤。縦位の沈線・条線		
20	第 13 図 PL.3	3Tr		R0005	7.5YR6/6（橙色） 7.5YR6/3（にぶい褐色）	曽利 I ～ II	直線的に外傾する口縁。半載竹管による平行沈線で重三角文を施文。端部内面の貼付突帯上に 2 条の太い横位沈線。曽利式の典型的な特徴。		
21	第 13 図 PL.3	3Tr		R0007	7.5YR3/2（黒褐色） 7.5YR4/4（褐色）	曽利 II	多重の斜位沈線。口縁端部は折り返し。口唇部上には外面から続く斜位沈線。下部に 3 条の横位沈線を施文。		
22	第 13 図 PL.3	3Tr		R0005	7.5YR3/2（黒褐色） 7.5YR3/3（暗褐色）	曽利 I ～ II	無紋口縁。肥厚して外側に開いたのち内湾。口唇部は平坦面を作る。		
23	第 13 図 PL.3	3Tr		R0005	5YR3/1（黒褐色） 5YR5/6（明赤褐色）	曽利 I ～ II	無紋口縁。厚みを保ったまま端部に至る。		
24	第 13 図 PL.3	2Tr		R0002	5YR5/6（明赤褐色） 5YR5/4（にぶい赤褐色）	曽利 I ～ II	ペン先状工具による浅い刺突文を半弧状の沈線で区画。端部は 2 条の沈線によって細い隆帯を作り出し、竹管による交互刺突文で波状に施文。		
25	第 13 図 PL.3		表採	R0010	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利 I ～ II	隆帯による渦巻つなぎ弧文。2 本の隆帯によって上下を区画。		

報告番号	挿図 写真図版	遺構名／トレンチ	層位	R 番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
26	第 13 図 PL.3	工事立会		R0270	5YR2/1（黒褐色） 5YR4/6（赤褐色）	曽利Ⅰかⅱ	沈線による渦巻文。口唇部に文様が及ぶ。		
27	第 13 図 PL.3	工事立会		R0270	5YR3/6（暗赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	曽利Ⅰかⅱ	縦位沈線を施文後、連続刺突文を伴う横位隆帯、逆 U 字状隆帯貼付け。		
28	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	7.5YR2/1（黒色） 7.5YR5/2（灰褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	上部は半截竹管による平行沈線施文後、縦位・横位の隆帯によって区画。下部は浅い縦位沈線ののち一部波状を呈する横位隆帯貼付け。		
29	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR4/3（褐色）	曽利Ⅱ	2 本の横位隆帯間に波状隆帯、方形に区画する隆帯の内部を縦位沈線で充填し、W字状の波状隆帯を貼付け。波状隆帯と方形区画隆帯の間に連続刺突文。曽利式の典型的な特徴を有する。		
30	第 14 図 PL.4	工事立会		R0270	5YR5/6（明赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	胴部に縦位沈線。隆帯による U 字状区画。区画内を縦位沈線で充填。		
31	第 14 図 PL.4	4Tr		R0008	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR2/2（黒褐色）	曽利Ⅱ	縦位沈線。縦位隆帯と部分的に波状を呈する縦位隆帯によって区画。下部に横位の波状隆帯貼付け。雲母多量に含有。		
32	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	5YR5/6（明赤褐色） 5YR3/2（暗赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	縦位条線文を施文後、3 本の縦位隆帯を作り出して区画。棒状工具による連続刺突文。		
33	第 14 図 PL.4	1Tr		R0001	5YR5/6（明赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	2 本の縦位隆帯貼付け。篦状工具による一部縄文擦り消し。		
34	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/3（にぶい赤褐色）	曽利Ⅲ	渦巻文が付属する半弧状の隆帯貼付け。隆帯中央部に形状に沿った深い沈線。半月状隆帯の内部に縦位および斜位の沈線施文ののち隆帯に沿って沈線。		
35	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	曽利Ⅲ～Ⅳ	地紋は LR 縄文。2 条の縦位沈線による区画。		
36	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	5YR4/6（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅲ～Ⅳ	上部に縦位沈線．下部は無紋。		
37	第 14 図 PL.4	1Tr		R0001	7.5YR6/6（橙色） 7.5YR7/6（橙色）	加曽利ＥⅣ	縄文を地紋とする。沈線でモチーフを形成。		
38	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	7.5YR6/4（にぶい橙色） 7.5YR5/2（灰褐色）	中期末～後期前葉	地紋は縄文。斜位沈線による文様帯が 3 単位。		
39	第 14 図 PL.4	4Tr		R0008	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR5/6（明赤褐色）	不明	口縁部にミガキ。肥厚しながら外傾して立ち上がる。口唇部は平坦。浅い沈線を施文。		
40	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	5YR4/6（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	不明	半截竹管で隆帯作り出し。		
41	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005	7.5YR7/8（黄橙色） 7.5YR7/6（橙色）	不明	全面的に RL 縄文を施文。		
42	第 14 図 PL.4		表採	R0010	7.5YR7/6（橙色） 7.5YR6/6（橙色）	不明	地紋は撚糸文。2 条からなる縦位波状沈線。		
43	第 14 図 PL.4	3Tr		R0007	5YR5/6（明赤褐色） 5YR6/6（橙色）	不明	底部。無紋。篦状工具による器面調整。		
44	第 14 図 PL.4	4Tr		R0008	7.5YR7/4（にぶい橙色） 7.5YR7/6（橙色）	不明	無紋底部。		
45	第 14 図 PL.4	3Tr		R0006				石匙	Hor
46	第 14 図 PL.4	4Tr		R0008				打製石斧	砂岩
47	第 14 図 PL.4	3Tr		R0005				打製石斧	不明
48	第 14 図 PL.4		表採	R0010				打製石斧	Hor

本調査

報告番号	掲図 写真図版	遺構名/トレンチ	層位	R番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
1	第18図 PL.9	SB2001 Pit03		R0095	7.5YR4/4（褐色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	無紋口縁。端部が内側に突出。		
2	第18図 PL.9	SB2001 FP01		R0027	5YR5/4（にぶい赤褐色） 5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	地紋は LR 縄文。縦位の波状隆帯貼付。		
3	第18図 PL.9	SB2001 FP01		R0113 R0027	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR4/4（灰褐色）	曽利Ⅲ	RL 縄文が地紋。肥厚しながら端部に至る。頭部に撚状工具による横位沈線。		
4	第18図 PL.9	SB2001 FP01		R0098	2.5YR4/6（赤褐色） 7.5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅲ	半截竹管による連続刺突文を2本の隆帯によって逆U字状に区画。区画内部中央に縦位波状隆帯貼付。棒状工具による刺突文。		
5	第18図 PL.9	SB2001		R0250	7.5YR4/4（褐色） 7.5YR4/3（褐色）	曽利Ⅳ	内湾する口縁。端部に2本の隆帯を貼付。口唇部に沈線。地紋は LR 縄文。		
6	第18図 PL.9	SB2001 FP01		R0196				敲石	An （安山岩）
7	第18図 PL.9	SB2001 FP01		R0197				敲石	砂岩
8	第20図 PL.9	SB2002		R0031	7.5YR4/4（褐色） 7.5YR5/3（にぶい褐色）	登沢か新道	縄文施文後磨消し。連続刺突文により縄文帯を方形に区画。		
9	第20図 PL.9	SB2002		R0031	7.5YR4/4（褐色） 7.5YR5/2（灰褐色）	登沢か新道	縄文施文後磨消し。連続刺突文による縄文帯の区画。刺突文で満巻状を施す。		
10	第20図 PL.9	SB2002		R0218	5YR4/6（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅱ	器厚が厚い内湾口縁。沈線による重弧文。中央部に満巻状隆帯貼付。満巻文外周の隆帯は交互刺突文による波状を呈する。雲母含有。		
11	第20図 PL.9	SB2002		R0225	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR5/3（にぶい赤褐色）	曽利Ⅲ～Ⅳ	浅い縦位沈線。		
12	第20図 PL.9	SB2002		R0220 R0221	7.5YR5/4（にぶい褐色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	堀之内	直線的に外傾。刺突文を地紋とする。		
13	第20図 PL.9	SB2002		R0171				打製石斧	砂岩
14	第20図 PL.9	SB2002		R0048				打製石斧	砂岩
15	第20図 PL.9	SB2002 周溝		R0209				打製石斧	砂岩
16	第20図 PL.9	SB2002		R0155				石錘	頁岩
17	第20図 PL.9	SB2002		R0203				敲石	Ba （玄武岩）
18	第22図 PL.10	SB2003		R0040	5YR4/6（赤褐色） 5YR5/4（にぶい赤褐色）	藤内	縦位条線を隆帯が弧状に区画。3本の隆帯上に綾杉状刺突文。隆帯間に三叉文。		
19	第22図 PL.10	SB2003		R0265	7.5YR5/6（明褐色） 7.5YR4/4（褐色）	井戸尻	隆帯による楕円区画文。隆帯の外堀に連続刺突文。区画内は縦位沈線が充填。		
20	第22図 PL.10	SB2003 Pit05		R0192	5YR5/6（明赤褐色） 7.5YR5/6（明褐色）	縄文中期	土製円盤。沈線による波状文と横位キャタピラー文。		
21	第25図 PL.10	SB2004 FP01		R0066 R0067 R0068 R0069 R0073 R0031	5YR4/6（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利	曽利式浅鉢。2条の横位沈線。口縁端部に沈線による区画文。		
22	第25図 PL.10	SB2004 FP01		R0062	5YR3/3（暗赤褐色） 7.5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢頸部。2本の横位隆帯間に貼付波状隆帯。		
23	第25図 PL.10	SB2004 FP01		R0136	5YR4/6（赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	曽利Ⅳ	2本の縦位隆帯。全面的に縦位条線施文。頸部に横位隆帯を貼付して区画。口縁部無紋。		
24	第27図 PL.10	SU2001		R0078 R0119 R0199 R0028	5YR3/4（暗赤褐色） 7.5YR5/6（明褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	口縁部は半截竹管による平行沈線。4単位の縦位波状隆帯が垂下。波状隆帯の起点に楕円形を呈する浮文。沈線はこの浮文を中心として口唇部で重弧文を形成。頸部に横位隆帯と波状隆帯。胴部は LR 縄文が地紋。S字状に連なる縦位綾絡文。粘土紐貼付によるモチーフ垂下。モチーフ内は縄文磨消し。縦位波状隆帯。		
25	第42図 PL.11	Pit2172		R0149	5YR5/6（明赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	井戸尻	眼鏡状突起。波状を呈する突帯貼付。		

報告番号	挿図 写真図版	遺構名／トレンチ	層位	R 番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
26	第 42 図 PL.11	Pit2229		R0261	7.5YR6/3（にぶい褐色） 7.5YR6/4（にぶい橙色）	井戸尻	大型円形区画文。隆帯上および区画内は無紋。上部に綾杉状刺突文や刻み文を有する突帯。		
27	第 42 図 PL.11	Pit2135		R0111	7.5YR4/3（褐色） 7.5YR3/4（暗褐色）	井戸尻	把手部分。側面に形状に沿った沈線。		
28	第 42 図 PL.11	Pit2233		R0242	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR3/4（暗赤褐色）	井戸尻	粘土突帯貼付け後、沈線による渦巻文施文。		
29	第 42 図 PL.11	SK2235		R0229	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	井戸尻	地紋は LR 縄文。縦位隆帯貼付。隆帯上に多截竹管による連続刺突文。		
30	第 42 図 PL.11	Pit2108		R0144	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR3/6（暗赤褐色）	曽利Ⅱ	直線的に開き端部で内湾。半截竹管による縦位集合沈線。横位の貼付隆帯で区画。		
31	第 42 図 PL.11	Pit2176		R0147	5YR3/6（暗赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	2 本の横位隆帯間に波状隆帯貼付。縦位貼付隆帯。		
32	第 42 図 PL.11	Pit2043		R0061	7.5YR5/3（にぶい褐色） 5YR4/6（赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	横位隆帯による区画の上部につなぎ渦巻弧文。下部は浅い縦位沈線。雲母含有。		
33	第 42 図 PL.11	Pit2172		R0168	7.5YR3/3（暗褐色） 7.5YR2/3（極暗褐色）	曽利Ⅳ	内湾口縁。縦位沈線。		
34	第 42 図 PL.11	Pit2034		R0059 R0086	5YR6/6（橙色） 5YR5/6（明赤褐色）	縄文中期	内湾して立ち上がり端部で外折。		
35	第 42 図 PL.11	Pit2138		R0112 R0117	5YR4/3（赤褐色） 5YR4/1（褐灰色）		胎土が粗い。条線をミガキによって磨消す。内面に煤付着。		
36	第 42 図 PL.11	Pit2019		R0083	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR4/1（褐灰色）	縄文中期	土製円盤。沈線による施文。		
37	第 42 図 PL.11	Pit2108		R0122	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR3/3（暗褐色）	縄文中期	土製円盤。無紋。		
38	第 42 図 PL.11	Pit2057		R0091	5YR4/8（赤褐色） 7.5YR3/4（暗褐色）	縄文中期	土製円盤。沈線による施文。		
39	第 42 図 PL.11	Pit2204		R0170				石匙	頁岩
40	第 42 図 PL.11	SK2235		R0230				打製石斧	頁岩
41	第 42 図 PL.11	Pit2083		R0127				石錘	頁岩
42	第 42 図 PL.11	SK2001		R0074				磨石	砂岩
43	第 42 図 PL.11	Pit2121		R0103				石皿	An （安山岩）
44	第 42 図 PL.11	SK2001		R0075				台石	An （安山岩）
45	第 43 図 PL.12	ｻﾌﾞﾄﾚ （南壁）		R0016	5YR7/6（橙色） 5YR6/4（にぶい橙色）	藤内	楕円形区画文。低隆帯上に連続爪形刺突文。区画内は隆帯に沿って沈線。中央に横位の矢羽根状連続刺突文。		
46	第 43 図 PL.12	調査区		R0267	5YR5/6（明赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	藤内～ 井戸尻	沈線による重三角区画文。区画内には沈線に沿ったキャタピラー文。中央には三叉文施文。		
47	第 43 図 PL.12	調査区		R0029	5YR4/6（赤褐色） 5YR3/4（暗赤褐色）	藤内～ 井戸尻	肥厚した横位隆帯上に横位沈線。横位集合沈線ののち、連続爪形刺突文を施文した隆帯が斜位に下垂。隆帯両縁に沈線、隆帯内側に浅い連続爪形刺突文。		
48	第 43 図 PL.12		Ⅱ	R0030	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	藤内～ 井戸尻	浅鉢口縁。横位隆帯貼付。隆帯間に 1 条の横位沈線。上段の隆帯に半円状の突起が付随し、内部に細い棒状工具による連続刺突文。		
49	第 43 図 PL.12		Ⅱ	R0030	5YR4/6（赤褐色） 5YR5/6（明赤褐色）	藤内～ 井戸尻	眼鏡状突起。突起及び貼付隆帯上に連続爪形刺突文。太い沈線による区画文。区画内部は沈線に沿って連続爪形刺突文。その内部には爪形のコンパス文を施文。		
50	第 43 図 PL.12	ｻﾌﾞﾄﾚ （南壁）		R0015	5YR4/6（赤褐色） 5YR5/4（にぶい赤褐色）	井戸尻	強調された把手。孔の周囲に沈線。下部には同心円状の円文を施文。突部上に 3 本の深い刻みと、そこから派生した沈線による半弧文。		
51	第 43 図 PL.12		表採	R0264	5YR5/6（明赤褐色） 5YR5/4（にぶい赤褐色）	井戸尻	口縁部。把手の痕跡がみられる。一部交互刺突文が残存。		
52	第 43 図 PL.12		Ⅱ	R0030	5YR4/8（暗赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	井戸尻	無紋口縁。直線的に開き、端部で内折。		

報告番号	挿図 写真図版	遺構名/トレンチ	層位	R番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
53	第43図 PL.12	ｻﾌﾞﾄﾚ (南壁)		R0015	10YR4/6（赤色） 10YR5/6（赤色）	井戸尻	内湾する口縁に外傾突帯貼付。粘土紐を編み上げた突帯。施状工具による沈線。		
54	第43図 PL.12	調査区		R0029	5YR4/8（赤褐色） 5YR3/2（暗赤褐色）	井戸尻	編み上げた粘土紐貼付。		
55	第43図 PL.12	調査区		R0267	5YR4/8（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	井戸尻	2本からなる隆帯が垂下。		
56	第43図 PL.12	調査区		R0033	5YR4/4（にぶい赤褐色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	井戸尻か	2条の沈線による円形文。下部に波形文施文。		
57	第43図 PL.12		Ⅲ (上)	R0240	5YR3/6（暗赤褐色） 5YR3/1（黒褐色）	井戸尻か	沈線による縦位および渦巻文。		
58	第43図 PL.12	調査区		R0028	7.5RY4/3（褐色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	井戸尻か	沈線による長方形区画。沈線下に横位キャタピラー文。沈線を伴う縦位隆帯貼付。		
59	第43図 PL.12		表採	R0137	5YR5/6（明赤褐色） 5YR6/4（にぶい橙色）	井戸尻か	充填する縄文を沈線で区画し磨消し。上部に沈線を伴う低隆帯。		
60	第43図 PL.12		Ⅱ	R0030	7.5YR5/6（明褐色） 7.5YR5/3（にぶい褐色）	井戸尻	沈線による楕円形区画文。区画内は施状工具による縦位沈線が充填。RL縄文。		
61	第43図 PL.12	調査区		R0029	5YR4/6（赤褐色） 5YR3/3（明赤褐色）	井戸尻か	縦位沈線施文。端部の低隆帯に横位連続爪形刺突文。口唇部に1条の沈線。		
62	第43図 PL.12	調査区		R0267	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅰ	水煙把手。粘土紐貼付により波状・同心円文を施文。棒状工具による凹部あり。		
63	第43図 PL.12	ｻﾌﾞﾄﾚ (西壁)		R0017	7.5YR5/6（明褐色） 7.5YR5/3（にぶい褐色）	曽利Ⅰ	無紋口縁。外傾して立ち上がり、端部は内折。頭部に2条の波状隆帯を貼付。		
64	第43図 PL.12	調査区 (東壁)		R0195	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	無紋口縁。直線的に開き、端部で肥厚。口唇部は平坦面。		
65	第43図 PL.12		Ⅱ (KU)	R0018	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR5/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	無紋口縁。緩やかに外湾しながら立ち上がる。端部で内側に隆帯貼付。		
66	第43図 PL.12		表採	R0264	7.5YR6/6（橙色） 7.5YR5/4（にぶい褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	無紋口縁。肥厚した端部が内湾。		
67	第43図 PL.12		表採	R0137	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	無紋口縁。やや厚みを減じながら開く。端部で内湾。		
68	第43図 PL.12		Ⅱ (KU)	R0021	7.5YR4/3（褐色） 7.5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	2条の横位沈線間の低隆帯上に斜位の連続刺突文。刺突文蓆上部に縦位集合沈線。雲母含有。		
69	第43図 PL.12	調査区		R0029	7.5YR4/2（灰褐色） 5YR4/8（赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	2段の貼付波状隆帯を横位隆帯によって区画。		
70	第43図 PL.12	調査区		R0028	7.5YR3/3（暗褐色） 7.5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	横位隆帯の下部に、4条の波状隆帯貼付。		
71	第43図 PL.12	調査区		R0028	7.5YR4/2（灰褐色） 7.5YR3/3（暗褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	横位隆帯下に3条の波状隆帯。上部に波状隆帯から派生した渦巻状文。縦位波状文。		
72	第43図 PL.12	調査区		R0028	5YR3/6（暗赤褐色） 5YR4/6（赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	横位隆帯で区画される波状文帯を2段施文。		
73	第43図 PL.12	調査区		R0267	5YR5/8（赤褐色） 5YR3/3（暗赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	断面三角形の縦位隆帯貼付。横位隆帯で区画。		
74	第44図 PL.13		Ⅲ	R0212	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR4/3（にぶい赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	縦位平行沈線。2条からなる縦位隆帯で区画。		
75	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR3/4（暗赤褐色） 5YR6/3（にぶい橙色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	半截竹管による縦位平行沈線。		
76	第44図 PL.13		Ⅲ	R0262	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR3/4（暗赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	幅広の縦位平行沈線。		
77	第44図 PL.13		Ⅲ	R0257	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR2/1（黒褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	縦位平行沈線。縦位波状隆帯で区画。		
78	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR4/6（赤褐色） 5YR5/6（明赤褐色）	曽利Ⅰ～Ⅱ	半截竹管による横位平行沈線。縦位波状隆帯を貼付して区画。X字状の貼付文。		
79	第44図 PL.13		表採	R0264	7.5YR7/4（にぶい橙色） 7.5YR7/8（黄橙色）	曽利Ⅱ並行	2条の横位貼付隆帯の上に連続重弧文。口縁内湾。粘土帯を重弧文端部に貼付。朱が残る。		
80	第44図 PL.13		Ⅱ	R0224	5YR4/4（にぶい赤褐色） 5YR7/4（にぶい橙色）	曽利Ⅱ	やや斜行する集合沈線の上に粘土紐を斜位に貼付。格子目文を形成。格子目文は口縁端部まで及び、内側の沈線を伴う貼付突帯によって切られる。		
81	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR5/2（灰褐色） 5YR4/8（赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	無紋口縁。大きく外傾。肥厚して端部に至る。		
82	第44図 PL.13	ｻﾌﾞﾄﾚ (北壁)		R0013	5YR4/6（赤褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	重弧文（逆U字状）を呈する平行沈線。		

報告番号	挿図 写真図版	遺構名/トレンチ	層位	R番号	色調外面 色調内面	時代	特徴	種別	材質
83	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR4/4（にぶい赤褐色） 7.5YR5/2（灰褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	縦位平行沈線、3本の隆帯によるモチーフ。上部は横位隆帯＋波状隆帯によって区画。		
84	第44図 PL.13		Ⅱ	R0228	7.5YR4/4（褐色） 5YR4/4（にぶい赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	地紋は縦位条線。貼付隆帯によるモチーフ。		
85	第44図 PL.13	調査区 （東壁）		R0195	7.5YR5/6（明褐色） 7.5YR5/3（にぶい褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	縦位条線を地紋とし、縦位隆帯で区画。隆帯上に多截竹管による連続刺突文。		
86	第44図 PL.13	ｻﾌﾞﾄﾚ （北壁）		R0011	5YR5/8（明赤褐色） 5YR4/8（赤褐色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	地紋は縄文。縦位の波状隆帯を貼付。		
87	第44図 PL.14		表採	R0032	7.5YR8/4（浅黄橙色） 7.5YR7/4（にぶい橙色）	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢底部。胴部に続くと思われる縦位平行沈線と縦位貼付隆帯。底面に網代痕。		
88	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR4/6（赤褐色） 5YR3/6（暗赤褐色）	曽利か	内模口縁。円錐状の突起を貼付し、強い沈線で渦巻文を施文。		
89	第44図 PL.13	調査区		R0028	5YR4/3（にぶい赤褐色） 5YR4/2（灰褐色）	曽利Ⅳ	縦位条線。端部ミガキ。		
90	第44図 PL.13		Ⅱ （KU）	R0023	5YR5/6（明赤褐色） 7.5YR6/3（にぶい褐色）	曽利Ⅳ	縦位平行沈線。連続押圧を伴う縦位隆帯貼付。		
91	第44図 PL.13	ｻﾌﾞﾄﾚ （北）		R0011	7.5YR5/3（にぶい褐色） 7.5YR6/4（にぶい橙色）	曽利式並行	RL縄文が地紋。端部に多截竹管による施文。		
92	第44図 PL.13		Ⅱ	R0234	5YR5/4（にぶい赤褐色） 5YR4/3（にぶい赤褐色）	不明	肥厚口縁。強いナデによる括れ。雲母含有。		
93	第44図 PL.14		Ⅱ	R0030	5YR5/6（明赤褐色） 7.5YR8/4（浅黄橙色）	曽利	深鉢底部。一部縄文残存。		
94	第44図 PL.13	ｻﾌﾞﾄﾚ （北壁）		R0014	5YR6/6（橙色） 5YR7/6（橙色）	縄文中期	深鉢底部。		
95	第44図 PL.13	調査区 （東壁）		R0195	5YR4/8（褐色） 5YR4/3（にぶい赤褐色）	縄文中期	深鉢底部。		
96	第45図 PL.14		表採	R0029				石匙	Hor
97	第45図 PL.14		Ⅱ	R0233				打製石斧	頁岩
98	第45図 PL.14		Ⅱ	R0022				打製石斧	Hor
99	第45図 PL.14		Ⅱ	R0237				打製石斧	Hor
100	第45図 PL.14		表採	R0264				打製石斧	頁岩
101	第45図 PL.14		Ⅱ	R0026				磨製石斧	砂岩
102	第45図 PL.14	包含層		R0269				石錘	砂岩
103	第45図 PL.14		Ⅱ	R0101				石皿	An （安山岩）

写 真 図 版

PLATE

1．本調査区全景（西から）

1. 1Tr（北西から）

2. 1Tr SK1001（東から）

3. 2Tr（南東から）

4. 3Tr（南東から）

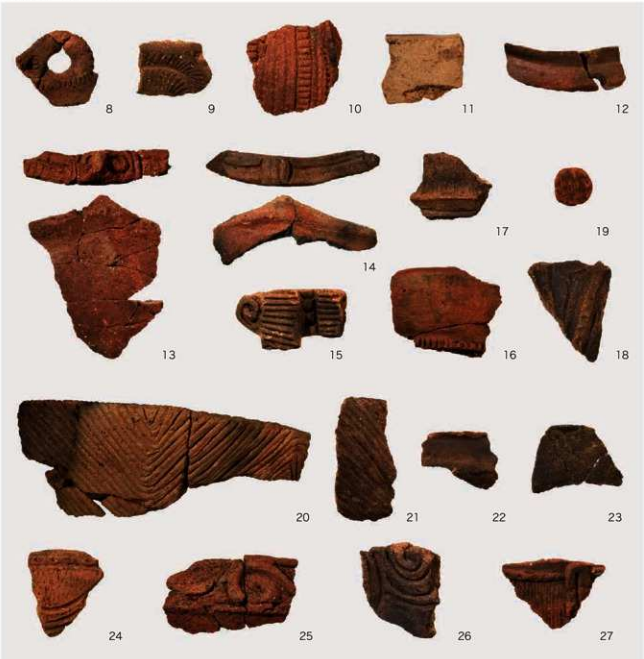
5. 4Tr（南東から）

6. 4Tr SB1002 セクション（西から）

確認調査　SB1001 出土遺物

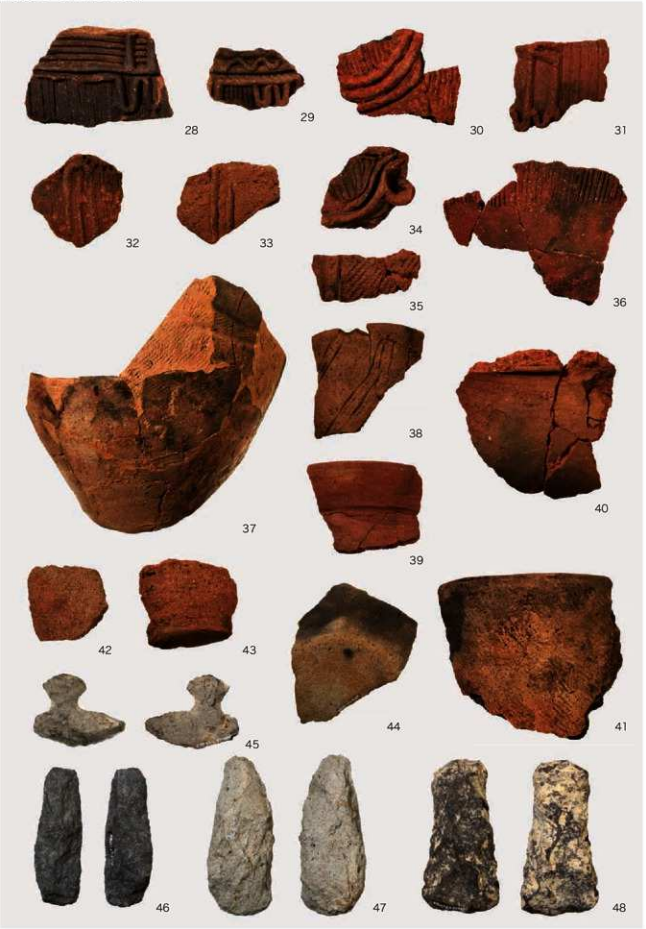
確認調査　SK1007 出土遺物

確認調査　包含層出土遺物



PL.4

確認調査　包含層出土遺物



1. SB2001FP01 検出（南西から）

2. SB2001 検出（南から）

3. SB2001SD01 セクション（南東から）

4. SB2001FP01（西から）

5. SB2001 完掘全景（南西から）

1. SB2002 検出（北から）

2. SB2004FP01 検出（北西から）

3. SB2002 と SB2004FP01 の切り合い（東から）

4. SB2004FP01 南北セクション（北東から）

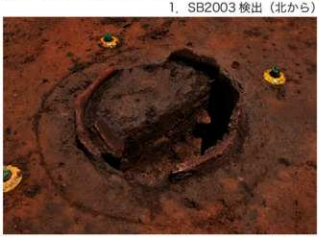
5. SB2002・SB2004（北西から）

1、SB2004FP01 完掘（北から）

2、SB2002 完掘（東から）

1. SB2003 検出（北から）

2. SB2003 完掘（北東から）



3. SU2001 東西セクション（南から）

4. SU2001（南東から）

5. SB2002 石器 13 出土状況（北東から）

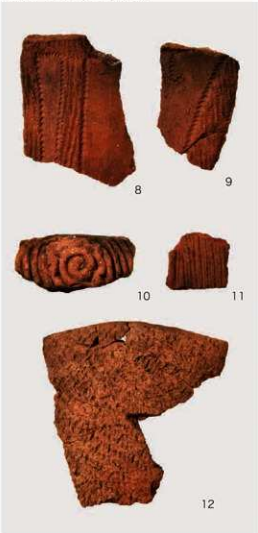
6. SK2001 石器 42・44 出土状況（南から）

7. Pit2121 石器 43 出土状況（北東から）

8. Pit2204 石器 39 出土状況（南東から）

本調査　SB2001 出土遺物

本調査　SB2002 出土遺物



PL.10

本調査　SB2003 出土遺物

本調査　SB2004 FP01 出土遺物

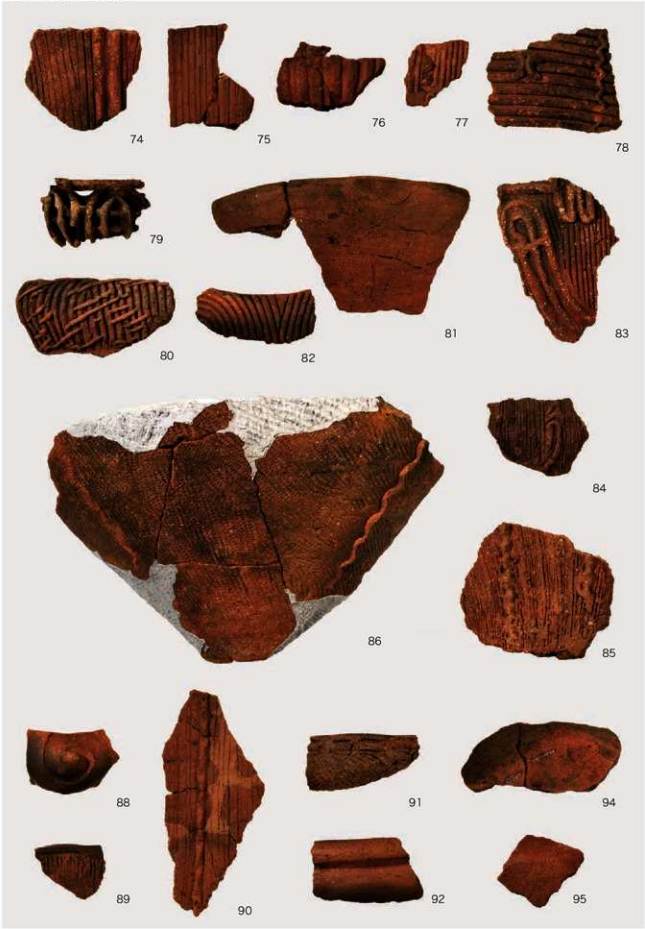
本調査　SU2001 出土遺物

本調査　Pit・SK 出土遺物

PL.12

本調査　包含層出土遺物

本調査　包含層出土遺物



PL.14

本調査　包含層

報告書抄録

ふりがな	てんまざわいせき　だい45ちく
書名	天間沢遺跡　第45地区
副書名	
シリーズ名	富士市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第65集
編著者名	伊藤　愛（編著）・若林美希
編集機関	富士市教育委員会　（担当課：文化振興課）
所在地	〒417-8601　静岡県富士市永田町1丁目100番地　　TEL　0545-55-2875
発行年月日	平成31年2月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経	地区名	調査期間	発掘面積（㎡）	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
てんまざわいせき	しずおかけんふじしてんま	22210	7	35　12′　33.29″ 138　38′　41.42″	第45地区	20170509 / 20170510	46.840	確認調査
天間沢遺跡	静岡県 富士市 天間					20170619 / 20170810	271.699	本発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項	
天間沢遺跡	集落跡	縄文時代		竪穴建物跡　6 埋甕土坑　1 土坑・ピット　240	縄文土器 石器			

要　約	本書では、天間沢遺跡第45地区の発掘調査の成果を報告する。 天間沢遺跡は、富士山麓南西に位置する縄文時代を中心とした集落遺跡である。東西には天間沢と福泉川が流下し、遺跡の北部には新富士火山旧期の大渕溶岩流が広がる。その下には不透水層である古富士泥流が遺跡全体に広く分布しており、そのため遺跡の付近にはかつて数か所の湧水点が存在したとされている。こうした良好な環境であったことが、集落形成の要因になったと考えられる。 天間沢遺跡に人間の活動痕跡がみられるのは、縄文時代早期からである。遺跡南部にあたる天間まちづくりセンター付近で茅山下層式土器が出土しており、この時期から人々が天間地区で暮らし始めたと考えられる。中期に入ると、集落の主体は遺跡中心部に移動する。竪穴住居跡や埋甕土坑、配石遺構等が確認されており、集落はこの時期に最盛期を迎えている。後期の様相については、現段階では判然としない部分も多いが、称名寺式や堀之内式に帰属する土器も出土していることから、集落規模は縮小しながらも、この時期まで人間が生活していた可能性がある。 本書において報告する第45地区は、確認調査と本調査を合わせて6軒の竪穴建物跡と1基の埋甕土坑、240基の土坑・ピットを検出した。竪穴建物跡の時期はいずれも中期に属すると考えられる。土器は勝坂式を中心とし、曽利式の前半期のものも出土している。過去に当該地付近で行われた調査においても、これと類似した結果が得られていることから、調査地一帯は中期集落の中心地のひとつであったと推定できる。

富士市埋蔵文化財調査報告　第 65 集

天間沢遺跡　第 45 地区

発行年月日　平成 31 年 2 月 28 日

編集・発行　富士市教育委員会
〒 417-8601　静岡県富士市永田町一丁目 100 番地
TEL 0545-55-2875　FAX 0545-53-0789
E-mail:si-bunka@div.city.fuji.shizuoka.jp

印刷・製本　文光堂印刷株式会社
〒 410-0871　静岡県沼津市西間門 68 番地の 1

（富士市行政資料登録番号　30-47）